NTT DaTa

intra-mart

The Power for Enterprise Web Solution

ベースモジュール/フレームワーク

アドミニストレータガイド

Ver 5.0

株式会社 NTTデータ イントラマート

Contents

第1章 システム管理者編 1

1 システム管理者の業務とログイン 2
システム管理者の業務 2
システム管理者のログイン 3
ホーム画面 4
システム管理者のメニュー 4
intra-martからのログアウト 5
2 データベース設定（マルチデータベース） 6
データベース設定の操作 6
3 システム管理者設定 7
4 ライセンス 8
5 ログイングループの設定 9
[ログイングループ]タブ 9
メインページパターンの追加 10
[ログイングループ管理者]タブ 10
6 ログイングループライセンス 12
7 管理メニュー設定 13
新規フォルダの作成 13
新規ページの作成 14
フォルダやページの更新と削除 15
フォルダやページの表示順の変更 15
8 IM-Administrator 16
IM-Administratorの起動と終了 16
メニューの説明 17
Service Platformの起動 17
パスワードの変更 18
Server Managerログ 18
ラウンドロビン 19
Service Platform 20
パフォーマンス表示 20
Httpサーバ 21
ログ 21
Service Platform画面の設定項目 22
共通設定 22
JavaVM 23
ログ 24
Application 25
Permanent 27
Storage 28
Serialization 28
Schedule 29
パフォーマンス表示 30
JavaVM memory 30
client request 31
network connection 32
コマンドによるサーバの制御 33
コマンドの一般書式 33
実行例 34

9 ラウンドロビン機能の利用 35
10 HttpSessionのフェールオーバ 36
メモリ to メモリ方式 36
メモリ to RDB方式 36
11 LDAPとの連携 37
LDAP連携の設定 37
LDAP認証機能 38
他社認証システムとの連携 38
実装例 39
12 定義ファイルの設定方法 41
intra-martのinit.js 41
imart.xml 41
アプリケーションで設定ファイルを利用するには 41
13 ログ出力機能 42
標準で利用可能なログ 42
ServicePlatformで利用できるログ 42
他社Application Serverを使用している場合のログの利用 42
J2EEベース開発モデルでのログの利用 43
14 データとプログラムのバックアップ 44
メニューおよび画面からデータをエクスポートする 44
ページベース開発モデルのAPIを利用する 44
J2EE開発モデルのAPIを利用する 44
プログラムをバックアップする 44
Storage Service上のファイルをバックアップする 44
15 ファイル操作 45
ツリーでディレクトリ選択時 45
ツリーでファイル選択時 45
16 データベース操作 46

第2章 ログイングループ管理者編 47

1 ログイングループ管理者の業務とログイン 48
ログイングループ管理者の業務 48
ログイングループ管理者でのログイン 48
ホーム画面 50
intra-martからのログアウト 50
2 初期設定（クイックスタートナビゲータの操作） 52
クイックスタートナビゲータの操作 52
3 ログイングループの設定 55
[ログイングループ]タブ 55
メインページパターンの追加 56
[ログイングループ管理者]タブ 56
4 アカウントライセンスの設定 58
特定のアカウントを検索して設定する 58
全アカウントを表示させて設定する 59
5 アクセスセキュリティの管理 60
intra-martのアクセスセキュリティの考え方 60
ロールの設定 61
ユーザの登録（アカウント情報とプロファイル情報） 63
ユーザの新規登録 63

フォルダ/ページへのアクセス権限の設定 71
その他のアクセス権限（組織・役職・パブリックグループ）の設定 71
アクセスセキュリティのインポート 72
アクセスセキュリティのエクスポート 72
アクセスセキュリティ新機能 74
国際化対応 74
情報保管場所の変更 74
更新系APIに対するリスナーの追加 74
認証方式のカスタマイズ 75
ログイン画面、メイン画面のカスタマイズ 75
6 メニュー設定 76
新規フォルダの作成 76
新規ページの作成 79
新規ページ（外部URL）の作成 81
フォルダやページの更新と削除 81
フォルダやページの表示順の変更 81
7 アプリケーションの登録 82
フォルダとページ 82
アプリケーション登録の操作 83
8 アプリケーション共通マスタ 84
組織の設定［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］ 84
組織の期間管理 85
「部署の期間」と「組織構成の期間」 85
「部署の期間」と「組織構成の期間」の関係 86
組織設定画面の構成 87
会社の新規登録 89
組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する 93
組織構成の変更－2：組織構成期間をコピーして作成する 96
組織構成を削除する 99
部署の属性登録 100
部署への所属および役職情報の設定 107
部署の削除 110
会社の削除 111
組織設定時のメッセージ一覧 111
役職の設定 113
パブリックグループの設定 116
アプリケーション共通マスタインポート 116
9 ポータルの設定と操作 119
ポータルの種類と作成メニュー 120
ログイン画面に表示されるポータル 120
intra-martホーム画面に表示されるポータル 121
ポートレット用ページの作成 122
ポートレットとして登録 122
全ログイングループに公開するグローバルポータル 126
会社・組織で情報を共有するグループポータル 129
リンク集の作成（リンク集ポートレットの設定） 132
10 バッチ管理の操作 134
バッチプログラムの作成と登録 134
11 カレンダーの設定 137

カレンダーデータの追加 137
カレンダー設定の新規追加 139
12 ViewCreator 140
アプリケーションの新規作成 140
クエリーメンテナンス 143
クエリーの編集 145
アプリケーションの編集 146
VIEW 146
FORM 147
アプリケーションの起動 148

第3章 一般ユーザ編 149

1 intra-martへのログインとログアウト 150
一般ユーザのログイン 150
intra-martからのログアウト 151
パスワードの変更 151
2 intra-martのメニュー構成と基本画面 153
メニューの表示 153
intra-martのホーム画面 154
ロケール設定 155
メインページパターン設定 155
カラーパターン設定 156
3 マイメニューの利用 157
マイメニューの設定 157
4 ポータルの利用 160
ポータルの種類と作成メニュー 161
ログイン画面に表示されるポータル 161
intra-martホーム画面に表示されるポータル 162
ユーザポータルの作成 163
組織内ポータル 167
ポータルの表示順序の変更 170
簡易SSO 171
5 プライベートグループの利用 172
プライベートグループの新規登録と編集 172
プライベートグループの作成 172
6 検索の操作 176
ユーザの検索 176
グループから検索 176
キーワード検索 178
会社・組織とパブリックグループの検索 179
ツリー表示から検索 179
キーワード検索 180
プライベートグループの検索 181
ロールの検索 182
カテゴリから検索 182
キーワード検索 183
7 ワークフローの設定と操作 184
8 ViewCreator 185
アプリケーションの起動 185

9 i-modeの利用 187
モバイルパスワード設定 187
i-mode用外出設定 187
10 メンテナンス画面の文字入力制限 188
ID、コード、パスワード系のフィールド 188
条件 188
URL、メールアドレスフィールド 188
条件 188
色コード設定フィールド 189
条件 189
数値入力フィールド（ソートキー等） 189
条件 189
名称や備考など 189
条件 189
補足事項 189
コントロールコード 189
適用フィールド 190
バッチ設定 190
カレンダー設定 190
分類設定 190
ログイングループ設定 190
役職設定 190
会社設定 190
パブリックグループ設定 191
ロール設定 191
システム管理者設定 191
アカウント設定 191
管理メニュー設定 191
メニュー設定 191

intra-mart The Power for Enterprise Web Solution

ベースモジュール
/フレームワーク

第1章

システム管理者編

1 システム管理者の業務とログイン

intra-mart Ver5.xでは、ひとつのintra-martシステムを独立した複数の会社や組織などのグループで共同利用するようなASP型の活用方法（マルチシェア型アプリケーション）を取ることができます。同じハードウェアやアプリケーションを利用していながら、ロール、ユーザ、メニューそしてデータベースなどはグループごとに異なる設定で利用することができるので、各グループが個別のintra-martシステム利用している感覚で使用することができます。
intra-martでは、共同で利用するそれぞれのグループを「ログイングループ」、その管理者を「ログイングループ管理者」と呼んでいます。そして、これら「ログイングループ」や「ログイングループ管理者」を統括管理するのが「システム管理者」です。

〈複数のログイングループを統括管理する「システム管理者」〉

システム管理者の業務

システム管理者は、intra-martのデータベース設定など共通の設定管理と各ログイングループとその管理者に関する次のような管理を行います。

データベース接続設定	intra-martのデータベースの接続設定を行います。
システム管理者設定	システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
ライセンス管理	購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループ管理	ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
管理メニュー設定	ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。

システム管理者のログイン

システム管理者は、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。

画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-martベースモジュール（スタンドアロン）：http://マシンアドレス:8080/imart/system.admin
intra-martベースモジュール（分散システム）：Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-martフレームワーク　　：Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-martベースモジュールをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号（Webサーバとしてのポート）は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。

2 ログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックします。

〈intra-martのログイン画面〉

- インストール直後のシステム管理者のユーザ名とパスワードは次のようになっています。ログイン後に[システム管理者設定]メニューで変更することをお勧めします。
  ユーザ名：system　　パスワード：manager

〈システム管理者でログインした場合のintra-martの初期画面〉

- 標準のシステム管理者のログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準のシステム管理者の初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/systemフォルダ
- システム管理者のログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/super-user-security/page-providerタグ内で行います。

ホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。

システム管理者のメニュー

ホーム画面の左メニューには、システム管理者が操作できる次のようなメニューが表示されています。

システム環境	intra-martのシステム環境の設定値が表示されています。
システム管理者設定	システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
ライセンス	購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループ設定	ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
ログイングループライセンス	ログイングループ毎のライセンス数を設定します。
管理メニュー設定	ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。
ファイル操作	%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。
データベース操作	データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。

intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている[LOGOUT]ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

2 データベース設定（マルチデータベース）

intra-martベースモジュール/フレームワークは、データベースの利用が前提となっているので、インストール時には、必ずデータベースの設定が必要となります。Ver5.xから、ひとつ以上のログイングループを設定しなければなりませんので、ログイングループごとにデータベースの設定が必要となります。

システムデータベース（マルチデータベース）	複数設定可能です。 すべてのログイングループが利用できるデータベースです。
ログイングループデータベース	ログイングループ毎に1つのみ設定します。 ログイングループのデフォルトデータベースとなります。

データベース設定の操作

設定は、サーバマネージャインストールディレクトリ/conf/data-source.xmlにて設定します。
以下に、設定の例を示します。

```
例:data-source.xml
<data-source>
     <system-data-source>
          <connect-id>system1</connect-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/system1</resource-ref-name>
     </system-data-source>
     <system-data-source>
          <connect-id>system2</connect-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle</resource-ref-name>
     </system-data-source>
     ...
     <group-data-source>
          <login-group-id>group1</login-group-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle1</resource-ref-name>
     </group-data-source>
     <group-data-source>
          <login-group-id>group2</login-group-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle2</resource-ref-name>
     </group-data-source>
     ....
</data-source>
```

system-data-source	システムデータベースのデータソース設定を行います。
connect-id	接続ID（system-data-sourceでユニークなもの）
group-data-source	ログイングループデータベースのデータソース設定を行います。
login-group-id	ログイングループID

- データベースの設定を変更した場合は、アプリケーションランタイムの再起動が必要です。

3 システム管理者設定

システム管理者設定は、自分自身のユーザIDやパスワードの管理、使用言語（ロケール）、その他の登録情報の管理を行う画面です。

〈システム管理者設定画面〉

ユーザID（必須）	システム管理者のログインIDを入力します。デフォルトでは、「system」となっており、任意に変更することができます。
パスワード（パスワード確認）	システム管理者がログインする際に使用する、パスワードです。デフォルトでは、「manager」となっており、任意に変更することができます。
ロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでシステム管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	システム管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	システム管理者への連絡先としての電話番号です。

4 ライセンス

intra-martのライセンスおよびその数量等が表示されます。
その他、この画面からデータベースに対して、管理メニューや初期データ、サンプルデータのインポートを行います。初期データとサンプルデータに関しては、ログイングループごとのデータベースに対してインポートする必要があるので、[インポート]ボタンの前にあるコンボボックスからログイングループ名を選択してから、[インポート]ボタンをクリックします。

この画面に表示されているライセンス数は、システム全体のライセンス数です。複数のログイングループが存在する場合には、システム管理者がそれぞれのログイングループに対して、ライセンス数を分配しなければなりません。ログイングループに対するライセンス数の分配は、「ログイングループライセンス管理」で行います。なお、ログイングループ内で、どのユーザにライセンスを発行するかは、ログイングループ管理者が設定することとなります。

5 ログイングループの設定

intra-mart Ver5.xでは、複数のログイングループを設定できます。システム管理者は、ひとつ以上のログイングループを設定し、そのログイングループ管理者を登録します。作成したログイングループの管理は、ここで設定したログイングループ管理者に任せることになります。設定は、[ログイングループ設定]で行います。新規にログイングループを作成する場合は、上部の[新規登録]をクリックします。また、ここでログイングループIDとして登録した名前が、URLの一部となります。

```
ログイングループID          :default
ログイングループ管理者      :http://[マシンアドレス]/imart/default.manager
ログイングループ利用一般ユーザ :http://[マシンアドレス]/imart/default.portal
```

[ログイングループ]タブ

ここでは、作成するログイングループの基礎データの登録を行います。ここでの設定は、ログイングループのデフォルトの設定となりますが、ログイングループ管理者や各ユーザの設定が優先されます。

この画面で、「□拡大」をクリックすると、ログイングループ名、登録アカウントライセンス数、ログイングループライセンス数などの項目領域を拡大して表示することができます。
〈ログイングループ設定画面 ― ログイングループタブ〉

ログイングループID	ログイングループの名称です。
ログイングループライセンス数	システム全体のライセンス数のうち、このログイングループに割り振るライセンス数を入力します。システム全体のライセンスが無制限(Infinity)である場合のみチェックできます。
ロケール	このログイングループがデフォルトで使用する言語を選択します。

アカウントロック回数	ログイン時に、ログインIDとパスワードが認証されなかった場合、ここで設定した回数を経過すると、「アカウントロック期間」で設定した分数だけログインの操作ができなくなります。回数を「0」とすると、アカウントロックすることなく、ログインを試行することができます。
アカウントロック期間（分）	アカウントロックされた場合、ここで設定した時間（分）ログインすることができなくなります。
ページカラーパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。
メインページパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面パターンを設定します。画面パターンは、追加、削除することもできます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

メインページパターンの追加

メインページは、ユーザが追加、削除、そして編集することができます。

〈メインページパターンの追加および編集画面〉

ページパターンID（必須）	ログイン後に表示されるページのパターンIDを入力します。
ページURL（必須）	ログイン後に表示されるページパターンのURLを入力します。指定するURLがページベースの場合は、pagesからの相対パスで、最後に拡張子（ .jssp ）を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
ページイメージURL	ログイン後に表示されるページのパターンの概要イメージのURLを入力します。コンテキストパスからの相対パスで指定します。

[ログイングループ管理者]タブ

[ログイングループ管理者]タブでは、システム管理者が作成したログイングループの責任者のユーザIDやパスワードを登録します。ログイングループ管理者は、ここで設定したユーザIDやパスワードでログインした後、すべての項目を変更することができます。

〈ログイングループ設定画面 ― ログイングループ管理者タブ〉

ユーザID(必須)	ログイングループ管理者のログインIDを入力します。
パスワード(パスワード確認)	ログイングループ管理者がログインする際に使用する、パスワードです。
ロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでログイングループ管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	ログイングループ管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	ログイングループ管理者への連絡先としての電話番号です。

6 ログイングループライセンス

intra-martのライセンス登録は、まずインストール時に行います。システム管理者は、この全体のライセンス数を各ログイングループに割り振る作業を行います。この作業を行う画面が、[ログイングループライセンス]です。同じ操作は、[ログイングループ設定]でログイングループを作成する際にも行えますが、複数のログイングループがある場合には、[ログイングループライセンス]のほうが効率よく設定することができます。

〈ログイングループライセンス画面〉

システムライセンス数	購入したシステム全体のライセンス数の表示です。
登録アカウントライセンス数	各ログイングループでログイングループ管理者が実際にユーザに割り振り、使用されているライセンス数の表示です。この数値を参考にしながら、「最大ライセンス数」に適切なライセンス数を割り振ります。
最大ライセンス数	システムライセンス数の範囲内で、各ログイングループにライセンスを振り分けます。入力後は[登録]ボタンをクリックします。

ここで各ログイングループに割り振ったライセンスは、ログイングループ管理者の采配によってユーザに割り振ることになります。この操作は、ログイングループ管理者が[ログイングループ管理]-[アカウント設定]、または[ログイングループ管理]-[アカウントライセンス設定]で行います。

7 管理メニュー設定

管理メニュー設定とは、ログイングループ管理者の画面に表示されるメニューを設定する画面です。この画面では、メニューに表示されるフォルダやページの追加、削除、更新などの操作が行えます。なお、一般ユーザの画面に表示されるメニューに関しては、各ログイングループ管理者が設定を行い、システム管理者が設定することはできません。

〈管理者用のメニューを設定する画面〉

新規フォルダの作成

メニューに新規フォルダを追加するには、上部にある[新規フォルダ]アイコンをクリックします。新規に作成されたフォルダは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したフォルダをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の[新規登録]ボタンをクリックします。

〈新規フォルダの作成〉

表示名（必須・ロケール）	フォルダの作成時には、登録されているロケールすべてについてフォルダ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するフォルダ名のロケールを選択します。
表示名（必須・名称）	選択したロケールに対応したフォルダ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてフォルダ名を入力します。
備考	フォルダに関する備考を入力します。

新規ページの作成

メニューに新規ページを追加するには、上部にある［新規ページ］アイコンをクリックします。新規に作成されたページは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したページをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の［新規登録］ボタンをクリックします。

〈新規ページの作成〉

表示名（必須・ロケール）	ページの作成時には、登録されているロケールすべてについてページ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するページ名のロケールを選択します。
表示名（必須・名称）	選択したロケールに対応したページ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてページ名を入力します。
URL（必須）	実際に表示したいページのURLを記述します。記述は、システムルートからの相対表示となります。
引数	ページ起動時に必要な引数がある場合には、ここで［追加］ボタンをクリックして登録します。登録した引数は、いつでも更新・削除することができます。
備考	ページに関する備考を入力します。

フォルダやページの更新と削除

既存のフォルダやページを更新や削除するには、まずツリー上で該当するフォルダやページを選択します。右に詳細な情報が表示されるので、変更することができます。変更の反映は、[更新]ボタンで行います。フォルダやメニューを削除するには、選択した状態で、[削除]アイコンをクリックします。

フォルダやページの表示順の変更

既存のフォルダやページの表示順序を変更するには、ツリー表示で該当するフォルダやメニューを任意の位置までドラッグします。マウスがアイコンの上にある場合にドラッグが可能です。
ドラッグした先がページの場合は、そのすぐ次に移動します。
ドラッグした先がフォルダの場合には、そのフォルダの中あるいは配下への移動を選択するメニューが表示されます。

〈「Myアプリケーション」フォルダを「ポータル」フォルダにドラッグした場合の例〉

8 IM-Administrator

監視ツール「IM-Administrator」は、intra-martのService Platformの情報を収集しているServer Manager(監視サーバ)に接続して、各Service Platformの状態の監視、起動、停止などの設定が行えます。

〈IM-Administratorの機能と概念〉

IM-Administratorの起動と終了

IM-Administratorは、intra-martとは独立したアプリケーションです。Server Managerはintra-martの各種Serviceとは独立したサーバにインストールします。

1 [スタート]メニューからIM-Administratorを起動します。

[ログイン]ダイアログボックスが表示されます。

〈[ログイン]ダイアログボックス〉

2 Server Managerのアドレス、ポートそしてパスワードを入力します。

IM-Administratorのメイン画面が表示され、各種設定を行います。

- インストール時のパスワードは「intramart」になっています。ログイン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更は、次項の「パスワードの変更」を参照してください。
- IM-Administratorは ServerManagerと接続することにより、intra-martシステムを管理しますが、ServerManagerに接続できるIM-Administratorは一つとなります。
- 複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとすると後から接続しようとしたIM-Administratorは、接続できません(同一マシン内で、複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとすると先に接続したIM-Administratorの接続も切断されてしまいます)。
- IM-Administrator利用中は、Server ManagerおよびService Platformの負荷が増加します。また、各種情報をIM-Administratorに対して転送するため、ネットワークトラフィックも増加します。

終了は、Windowsの通常のアプリケーションと同様に終了します。

メニューの説明

IM-Administratorのメイン画面では、intra-martのService Platformが一覧表とビジュアルに表示されます。ここでは、一覧表またはビジュアルな構成図から状態の監視や設定を行いたいサーバを選択します。

基本画面(ラウンドロビン)　　基本画面(スタンドアロン)

〈IM-Administratorのメイン画面〉

画面左側のツリーをクリックすると、画面右側に情報が表示されます。

Service Platformの起動

操作対象のService Platform(画面ではimart1、imart2,、imart3、imart4)をクリックして選択状態にしてから起動/停止/再起動ボタンをクリックします。
ラウンドロビン運用時には「ラウンドロビン」を選択することで、全てのService Platformをまとめて起動/停止/再起動することができます(imart1, imart2, imart3, imart4は例です。このIDはService Platformインストール時にインストーラで設定します)。

- Server Managerを起動・停止制御することはできません。
- intra-mart フレームワークでスタンドアロン型の場合は、起動・停止制御することはできません。
  また、intra-mart フレームワークで分散構成の場合は、Application Runtimeの動作しているサーバ(ご利用のアプリケーションサーバ)を起動・停止制御することはできません。

パスワードの変更

IM-Administratorのログインパスワードを変更します。初期パスワードは「intramart」になっています。

〈[パスワード変更]ダイアログボックス〉

Server Managerログ

Server Managerに出力されているログの最新の100行が表示されます。

〈Server Managerログの表示〉

ラウンドロビン

ラウンドロビンに含まれているService Platformの一覧およびサービスの状態が表示されます。ただし、この画面は、ラウンドロビン運用時のみ表示されます。

Application Runtime	
Running	サービスは実行中です。
Stopped	サービスは停止中です。
その他のサービス	
Active	サービスは実行中です。
Standby	サービスはスタンバイ状態です。
Stopped	サービスは停止中です。

Service Platform

Service Platformのサービスの状態、および設定の変更を行います（画面ではimart1）。画面の各設定項目に関しては、次の「Service Platform画面の設定項目」を参照してください。

〈 Service Platformの状態表示〉

パフォーマンス表示

Service Platformのメモリ状態、ネットワークコネクションなどの状態と履歴が表示されます。ラウンドロビン運用時には各ServicePlatformの状態を一覧表示した画面が表示されます。画面の各項目に関しては、以降の「パフォーマンス表示」を参照してください。

〈パフォーマンス表示〉

Httpサーバ

Application RuntimeのWebサーバの設定を行います。この機能は、intra-martベースモジュールでのみ使用できます。

セッションタイムアウト	セッションを保持する時間です。
最大セッション保持数	セッションを保持する最大数です。この数を超えた場合、既存のセッションがランダムに破棄されます。
セッションをcookieに保存	セッション情報をブラウザのcookieに保存します。
セッションをURLに付加	セッション情報ブラウザのリクエストURLに付加します。
セッションIDの再利用	タイムアウトしたセッションのIDを再利用します。

ログ

Service Platformに出力されているログの最新の100行が表示されます。

Service Platform画面の設定項目

Service Platform（画面ではimart1）のサービスの状態、および設定の変更を行います。

共通設定

Service Platformの基本設定です。

Service Platform ポート	Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのポートです。対象のService PlatformにApplication Runtimeが存在する場合は表示されません。
ネットワークコネクション数	Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのコネクション数です。
同時実行スレッド数	Service Platformが同時に処理を行うスレッドの数です。
自動再起動	Service Platformなんらかの例外でダウンしてしまった場合、自動的に再起動を行います。
リクエストタイムアウト	Service Platform間のネットワークリクエスト時のタイムアウト時間です。
サーバコネクションの有効時間	Service Platform間通信のサーバ側接続待機時間です。
クライアントコネクションプールの有効時間	Service Platform間通信のクライアント側コネクションプールを保持する時間です。

JavaVM

Service PlatformのJava起動設定です。

初期ヒープサイズ	Service Platformの初期ヒープサイズです。
最大ヒープサイズ	Service Platformの最大ヒープサイズです。
JavaVM	Service Platformを起動するJavaVMです。
オプション	Java起動オプションです。

ログ

各種ログの出力設定です。インストールされているサービスにより出力されるログが異なります。

ログの有効	対象のログ出力を有効にします。
ファイル出力	ログファイルに出力します。
詳細ログ	詳細ログを出力します。errorログのみの設定です。
出力先	ログファイルの出力先を指定します。
フォーマット	ログファイルの出力フォーマットを指定します。
リフレッシュ	ログファイルの初期化の有効と初期化のファイルサイズを指定します。
バックアップする	リフレッシュ時にログのバックアップを保存します。
コンソール出力	ログをService Platformのコンソールに出力します。この設定は開発時向けの設定です。

Application

Application Runtimeに関する設定です。

■クライアント

クライント出力の設定です。

ログインセッションの自動維持	セッションタイムアウトを無効にします。
外部サイトポップアップ	intra-martのメニューに登録された外部のサイトをポップアップウィンドウで開きます。
組織ツリー	会社-組織、パブリックグループ、プライベートグループのメンテナンス画面とユーザ検索画面、組織検索画面に表示される組織ツリーをグラフィカル組織ツリーに切り替えます。切り替え後は全ての組織が画面に表示されますので、大量データ時などレスポンスの低下につながる場合は使用しないでください。

■HTTP

HTTPに関する設定です。

受付けるクエリーの最大サイズ	処理行うリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは処理されません。
アクセス全体の待ち行列数	アクセス全体の待ち行列の数です。これを超えるリクエストは処理せれません。
並列処理を行うクエリーの最大サイズ	同時に処理されるリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは直列に処理されます。
直列処理の待ち行列数	直列処理の待ち行列数です。これを超えるリクエストは処理せれません。

■SMTP

SMTPサーバに関する設定です。

SMTPサーバアドレス	SMTPサーバのアドレスを指定します。
SMTPサーバポート	SMTPサーバのポートを指定します。

Permanent

Permanent Data Service に関する設定です。

データルート	Permanent データを保存するルートディレクトリです。自動バックアップを有効Permanent データのバックアップを行います。バックアップされたデータはデータルート以下のhistoryディレクトリに保存されます。
毎日	毎日指定した時間にバックアップを行います。
定期的	指定した時間が経過するとバックアップを行います(単位:秒)。

Storage

Storage Serviceに関する設定です。

ファイルルート	ファイルを保存するルートディレクトリです。

Serialization

Serialization Serviceに関する設定です。

アプリケーションロック時間	ページベースプログラムのアプリケーションロックを継続する最大時間を指定します。「0」を指定した場合、一度設定されたロックフラグは明示的なロック解除がされないかぎり永久に開放されません。

Schedule

Schedule Serviceに関する設定です。

バッチロードタイム	Schedule Serviceは毎日指定した時間に一日分のバッチ処理情報を読み込みます。設定情報は24時間表現で設定します。(例：01:00:00)
監視時間	バッチ起動チェック用タイマー設定。この設定を短くすると、Service Platformの負荷が高くなります。逆に、この設定を長くすると、バッチ設定時間と実際にバッチプログラムが実行される時間とのタイムラグが大きくなります。最大監視時間分の実行遅延が発生する可能性があります。
Application RuntimeのURL	バッチ処理を実行するApplication RuntimeのURLを指定します。スタンドアロン環境の場合は表示されません。

パフォーマンス表示

JavaVM memory

Service Platformのメモリ状態を表示します。

〈パフォーマンス表示〉

maximum heap	最大ヒープサイズ
initial heap	初期ヒープサイズ
total heap	ヒープの総容量
used heap	使用中のヒープサイズ

- Javaのヒープサイズの詳しい説明は、Javaの専門書をご覧ください。

client request

クライアントからのリクエスト数を表示します。Application Runtimeの場合はWebブラウザからのリクエスト、その他のService Platformの場合はApplication Runtimeからのリクエストを表示します。

request counter	
max threads	同時に処理が可能なリクエスト数です。Service Platform設定の「同時実行スレッド数」が表示されます。
current requests	現在受け付けているリクエストの数です。
requests queuing	同時処理数を超え、待ち状態になっているリクエストの数です。
response time	
max	レスポンスの最大遅延時間です。
average	レスポンスの平均時間です。
extends information	
used peak	最大同時リクエスト数とその発生時間です。

- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。

network connection

Application Runtimeとその他のService Platformのコネクション状態を表示します。Service PlatformがApplication Runtimeの場合に表示されます。スタンドアロン環境の場合は表示されません。

pool size	
capacity	ネットワークコネクションの最大値が表示されます。Service Platform設定の「ネットワークコネクション数」が表示されます。この値を超えるコネクションは待ち状態となります。
pool	現在保持しているコネクションプールの数です。
used	現在のコネクション数です。
extends information	
used peak	最大同時コネクション数とその発生時間です。

- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。

コマンドによるサーバの制御

IM-Adminstratorの画面からintra-martの各サービスプラットフォームを制御する以外に、コマンドラインからサーバマネージャに接続して制御する機能が用意されています。

コマンドの一般書式

```
Windowsの場合
 (インストールディレクトリ)¥bin¥SrvCom.bat [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]

UNIXの場合
 (インストールディレクトリ)/bin/SrvCom.sh [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]
```

[機能コード]	用意されている次の機能コードを指定します。 -show　サーバの一覧を表示する -start　[オプション]で指定したサーバを起動する -stop　[オプション]で指定したサーバを停止する -restart　[オプション]で指定したサーバを再起動する
[addr]	サーバマネージャのコンピュータアドレスを指定します。
[prot]	サーバマネージャの待ち受けポートを指定します。
[password]	パスワードを指定します。IM-Administratorにログインするときのパスワード。
[オプション]	制御対象となるサービスプラットフォームのサーバIDを指定します。 特定のサーバの場合　-id（サーバID） 全サーバを対応とする場合　-all サーバの表示の場合（-show）　なし

実行例

実行例として、特定のサーバを停止するコマンドの利用方法を説明します。
ここでは、次のような環境であるとします。

```
Server Managerをインストールしたマシンの IPアドレス　：192.168.0.1
Server Managerをインストールしたマシンのポート：8080
intra-mart Administratorのパスワード　　：intramart
コマンド処理の対象となるService Platformのサーバ ID　　：192.168.0.2:ServicePort
intra-mart Administrator をインストールしたパス：<%im_path%>
```

1 **コマンドプロンプトを起動します。**

2 **〈%im_path%〉/bin に移動します。**

3 **次のコマンドを実行します。WindowとUNIXの例を示します。**

Windowsのとき

```
SrvCom.bat -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort
```

UNIXのとき

```
SrvCom.sh -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort
```

- コマンドでサーバを制御するには、IM-Administrator がインストールされている必要があります。
- intra-mart フレームワークでは、Appliction Runtime に対するコマンドによるサーバ制御はできません。
- 分散インストールしている環境において、システム全体を再起動する場合、「-restart」と「-all」オプションを同時に指定して Service Platform を再起動すると各サーバの停止、起動のタイミングによって正常に再起動されない場合があります。システム全体を再起動させるには「-stop -all」オプションを実行し、全ての Service Platform が停止したことを確認後、「-start -all」オプションで起動する方法をおすすめします。

9 ラウンドロビン機能の利用

ラウンドロビン機能は、負荷分散ならびに障害対策のためにApplication Runtimeを複数設置して、クライアントからのアクセスを、登録されているApplication Runtimeに負荷分散する機能です。
この機能は、intra-martベースモジュールで利用できる機能で、intra-martフレームワークでは利用できません。

intra-martでは、Webサーバとintra-mart製品をむすぶWeServer Connector(コネクタモジュール)の設定によって、この機能を実現しています。

- アプリケーションサーバに内包されているintra-mart HTTPサーバを利用する際には、市販のクラスタ製品を利用して、負荷分散することになります。
- Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession (ログインセッション)をフェールオーバさせることができます。
- 設定の詳細は、設定ガイド「3.1 Web Server Connector」を参照してください。
- 詳しくは設定ガイドの「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。

10 HttpSessionのフェールオーバ

Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession（ログインセッション）をフェールオーバさせることができます。この機能は、intra-martベースモジュールで利用できる機能で、intra-martフレームワークでは利用できません。ベースモジュールでのセッションフェールオーバは、以下の2方式となります。

- 詳しくは設定ガイドの「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。

メモリ to メモリ方式

メリット	Application Runtimeの設定だけで構築可能。メモリto RDBと比較して、処理負担がない。
デメリット	バックアップ関係にある2台が両方ともダウンするとセッションが消える。メモリto RDB方式に比べて設定が難。他のApplication Runtimeのメモリを保存するため、Application Runtimeのメモリ消費量が増える。

メモリ to RDB方式

メリット	Application Runtimeが何台ダウンしても、最低1台残ればセッションの継続が可能。メモリtoメモリ方式に比べて設定が容易。
デメリット	DBが必要。

市販のクラスタ製品を利用してラウンドロビン構成で運用する場合には、メモリ to RDBを推奨します。より堅牢なシステム構成にするには、メモリtoRDB方式を推奨します。

11 LDAPとの連携

intra-martは、ディレクトリサービスへの標準的なアクセス手段であるプロトコルLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）にも対応しています。intra-martは、認証モジュールによって、intra-mart標準の認証システムをはじめ、LDAPサーバなどに接続して認証する形式となっています。この認証モジュールを変更することによって、各社の認証システムにも対応することができます。

〈認証モジュールでLDAPと連携〉

LDAP連携の設定

LDAP連携の設定は、以下の設定ファイルで行います。画面からは行えません。

```
%Server Manager%/conf/access-security.xml
```

security-config/user-security/auto-certificationおよびcertificationタグ内で設定します。

```
<certification-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.LDAPUserCertif
ication</certification-class>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.provider-url</param-name>
    <param-value>プロバイダURL</param-value>
</init-param>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.dn</param-name>
    <param-value>識別情報</param-value>
</init-param>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.context-factory</param-name>
    <param-value>コンテキストファクトリ</param-value>
</init-param>
```

ログイングループ単位に3つのパラメータを指定します。

ログイングループID.provider-url	プロバイダURLを設定します。 （例：ldap://localhost:389/）
ログイングループID.dn	識別情報を設定します。認証時には ´?´ にユーザIDが入ります。 （例：uid=?,ou=People, o=ldaps.intra-mart.jp）
ログイングループ ID.context-factory	コンテキストファクトリを設定します。 （例：com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory）

- 設定後、サーバを再起動することで、パラメータに設定したLDAPサーバに認証を行うようになります。

LDAP認証機能

他社認証システムとの連携

他社認証システムとの連携を行うには、認証モジュールインタフェースを実装した認証モジュールを作成し、設定ファイルに定義することで、認証処理の連携が可能となります。

認証モジュールインタフェース定義
`jp.co.intra_mart.foundadion.security.certification.UserCertification`

初期化メソッド	public void init(Map params) ;
ユーザログイン認証モジュールの初期化を行います。 クラスが生成された時に1度だけ呼び出されます。 パラメータ 　params 設定ファイルに定義されているパラメータののマップ	

認証メソッド	public int certification(LoginInfo loginInfo, Account user, HttpServletRequest request, HttpServletResponse response);
ユーザの認証を行います。 ユーザ認証時に呼び出されます。 パラメータ 　loginInfo　ログイン時の認証用の情報（ユーザ、パスワード、ログイングループなど） 　user　　ログイン対象ユーザのアカウント情報 　request　HTTPサーブレットリクエスト 　response HTTPサーブレットレスポンス 戻り値　認証結果を返却します。 　以下のいずれかの定数を返却します。 　認証成功　　SecurityConstraint.CR_OK 　認証失敗　　SecurityConstraint.CR_NG 　認証処理エラー SecurityConstraint.CR_ERROR	

実装例

1 認証モジュールを実装します。

```
package test;
·····
class TestCertification implements UserCertification {
     public void init(Map params){
          // 初期化処理を記述します。
          // このメソッドはこのクラスが生成されるとき、一度だけ呼び出されます。
          // 引数の初期化パラメータなどを処理します。
     }

     public int certification(LoginInfo loginInfo,
          Account user,
          HttpServletRequest request,
          HttpServletResponse response){
          // 引数に渡された情報を元に他社システムに接続して認証処理を行います。
          // 認証結果を返却します。
          return SecurityConstraint.CR_OK;
     }
};
```

2 実装認証モジュールを配置します。

実装した認証モジュールをコンパイルし、以下の場所に配置します。

```
ApplicationRuntimeのdoc/imart/WEB-INF/classes
```

3 設定ファイルを記述します。

認証モジュールを以下の設定ファイルに定義します。

```
ServerManagerのconf/access-security.xmlの以下のタグ内に記述します。
<access-security>/<security-config>/<user-security>
```

```
<auto-certification>
     <certification-class>test.TestCertification</certification-class>
          <init-param>
               <param-name>初期化パラメータ名</param-name>
                    <param-value>初期化パラメータ値</param-value>
          </init-param>
     </auto-certification>
<certification>
     <certification-class>test.TestCertification</certification-class>
          <init-param>
               <param-name>初期化パラメータ名</param-name>
               <param-value>初期化パラメータ値</param-value>
          </init-param>
</certification>
```

- 〈auto-certification〉タグには、ログイン画面表示前のリクエストから認証処理を行ユーザログイン認証インタフェース実装クラスを設定します。
- また、このタグは省略可能です。省略した場合は、自動ログインができなくなります（ログイン画面を出さずにログイン）。
- 〈certification〉タグには、ログイン画面からのリクエストから認証処理を行うユーザログイン認証インタフェース実装クラスを設定します。
- 〈init-param〉タグは複数設定可能です。また、このタグは省略可能です。
- このタグに設定された値は、クラス初期化時に、init関数の引数として渡されます。

4 システムを再起動します。

12 定義ファイルの設定方法

intra-martベースモジュール/フレームワークは、起動時に1回だけ定義ファイルを読み込みます。これら定義ファイルには、intra-martが動作する上で必要とする各種情報が納められており、ユーザが設定を変更できる項目も含まれています。
以下に、これらの定義ファイルについて説明します。

- 定義ファイルを変更したときは、関連するサーバを再起動する必要があります。
- 定義ファイルの変更は、IM-Administratorから行うこともできます。詳細は、本書「12 IM-Administrator」をしてください。

intra-martのinit.js

init.jsは、Resource Serviceのページベース開発モデルのプログラムルート(インストールディレクトリ直下のpages/)に配置され、アプリケーションが起動される際に、一度だけ実行されます。このinit.jsプログラムファイルは、その性質上アプリケーション全体の初期化処理などの用途に利用され、初期化処理としてアプリケーションが動作するために必要な各種設定や、共通関数の読み込みおよび定義などが記述されています。

imart.xml

「imart.xml」は設定ファイルで(conf/ にあります)、intra-mart の各サーバに1つずつ存在し、システム全体に関する設定が記述されています。設定ファイル内は、XML 形式で記述されているため、設定を変更する場合には書式に合わせて書き換えるか、またはIM-Administratorを利用して設定を変更します。設定を変更した場合は、設定を変更したサーバの再起動が必要となります。

- 各項目の設定の詳細に関しては、「設定ガイド」を参照してください。s

アプリケーションで設定ファイルを利用するには

ユーザ定義の定義ファイル(*.ini)を作成することも可能です。定義ファイル(*.ini) は、intra-martではResource Serviceで一元管理されていて、ファンクションコンテナAPI System.read()を利用することでintra-martベースモジュールではApplication Runtimeに、intra-martフレームワークではWeb アプリケーションサーバにロードされます。書式は、かならず「項目名=値」という形で記述してください。データは1行1項目の形式で記述します。
書式は、必ず『項目名=値』という形で記述してください。値はダブルクォート、シングルクォートで囲まず、データは1行1項目の形式で記述します。このファイル内では大文字・小文字も厳密に判定されるので注意が必要です。「#」以降は行末まで行コメントになります。

13 ログ出力機能

intra-martには、様々なログ出力機能が用意されています。ログ機能により出力された情報は、intra-martアプリケーションを運用中に障害が発生した場合の原因究明に利用できます。各サーバのログ出力は、intra-martをインストールしたディレクトリの conf/imart.xmlファイル内に定義を記述します（IM-Administratorを利用して設定することもできます）。
以下に設定ファイルの一部を掲載します。
ここに掲載した内容以外にも、豊富なログ機能を利用するための設定項目が多数存在しますので、各設定を利用してログ機能を活用してください。詳細は設定ガイドをご覧ください。

標準で利用可能なログ

intra-martのログの種類は、次のようになります。

システムログ
エラーログ
ネットワークログ
データベースログ
セキュリティログ
バッチログ
リクエストログ

ServicePlatformで利用できるログ

intra-martの標準のログ以外に、ベースモジュールのApplicationRuntimeが動作するServicePlatformでは、次のログも利用できます。

HTTPアクセスログ

他社Application Serverを使用している場合のログの利用

フレームワークのApplicationRuntimeが動作している環境、つまりWebSphereやWebLogic Serverなどの他社製Application Serverを利用している場合には、次のログも利用できます。
これら他社製ソフトウェアのログは、標準のintra-martサーバのログと合わせて分析することにより、サーバの利用状態やエラー発生時の原因の究明のためのな有効なツールとなります。

標準出力ログ
標準エラー出力ログ

J2EEベース開発モデルでのログの利用

以下のAPIを利用することにより、ApplicationRuntimeで動作するアプリケーションから、intra-martのシステムログおよびエラーログに対してメッセージを書き込むことができます。

```
jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.Platform.out
jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.Platform.err
```

また、以下のパッケージを利用すると独自のログを実装することもできます。

```
jp.co.intra_mart.foundation.utility.report
```

- 設定方法や詳細な機能説明は、設定ガイド(サービス編)を参照してください。
- intra-martベースモジュールのWeb Server Connector(サーバ接続モジュール)に関するログに関しては、本書第1章「8 IM-Administrator」を参照してください。
- 独自に開発したアプリケーションでログを出力させたい場合は、Fileオブジェクト(ページベース開発モデル)などを利用してください(詳細は「APIリスト」を参照してください)。
- J2EEベース開発モデルでは、java.ioパッケージなどを利用してください。

14 データとプログラムのバックアップ

intra-martにはユーザが作成したプログラムや設定情報をバックアップする機能が用意されています。
データベースのデータのバックアップについては、各データベースのマニュアルを参照してください。

メニューおよび画面からデータをエクスポートする

ログイングループ管理者画面の[ログイングループ管理]配下には、インポート／エクスポートを行う画面が用意されています。これを利用して、各種設定データをファイルに保存することができます。
エクスポートデータの形式については、次のファイルを参照してください。

```
%Server Manager%/specification/dtd 以下のDTDファイル
```

ページベース開発モデルのAPIを利用する

AccountManger,RoleManger,MenuManager,AdminMenuManager,CalendarManager,BatchManagerなどをI利用し、各設定データをファイルにエクスポートすることができます。詳細については、APIリストを参照してください。また、エクスポートデータの形式については、次のファイルを参照してください。

```
%Server Manager%/specification/dtd 以下のDTDファイル
```

J2EE開発モデルのAPIを利用する

jp.co.intra_mart.fundation.securityパッケージ配下の各マネージャクラスの各APIを利用し、各設定データをファイルにエクスポートすることができます。詳細については、APIリストを参照してください。また、エクスポートデータの形式については、次のファイルを参照してください。

```
%Server Manager%/specification/dtd 以下のDTDファイル
```

プログラムをバックアップする

ページベース開発モデルでは、%Resource Service%/pagesフォルダ以下をバックアップします。
J2EE開発モデルでは、%Application Runtime%/docフォルダ以下をバックアップします。
また、その他の場所にプログラムを配置した場合は、それらをバックアップします。

Storage Service上のファイルをバックアップする

%Storage Service%/storageフォルダ以下をバックアップします。

15 ファイル操作

このアプリケーションは、%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。ディレクトリやファイルの新規作成、ファイルの削除やアップロード、名称の変更、テキスト編集などが行えます。アップロードされたファイルはStorage Serviceに保存されます。

〈ファイル操作画面〉

ツリーでディレクトリ選択時

ディレクトリを選択した状態では、次のような操作が行えます。

新規作成[ディレクトリ]	選択しているディレクトリ配下に、新規ディレクトリを作成します。
新規作成[ファイル]	選択しているディレクトリ配下に、新規ファイルを作成します。
名称変更	選択しているディレクトリの名称を変更できます。
削除	選択しているディレクトリを削除します。
[ファイルのアップロード]ボタン	選択しているディレクトリ配下に、任意のファイルをアップロードできます。形式は、テキストとバイナリから選択します。

ツリーでファイル選択時

ファイルを選択した状態では、次のような操作が行えます。

名称変更	選択しているファイルの名称を変更できます。
削除	選択しているファイルを削除します。
ダウンロード：[テキスト][バイナリ]	選択しているファイルをテキストまたはバイナリ形式でダウンロードします。

16 データベース操作

データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。接続先として、システムデータベースまたはログイングループ用のデータベースを選択した上で、テキストエリアにSQL文を記入し、[実行]ボタンをクリックします。

〈データベース操作画面〉

intra-mart The Power for Enterprise Web Solution

ベースモジュール
/フレームワーク

第2章

ログイングループ管理者編

1 ログイングループ管理者の業務とログイン

ログイングループ管理者は、システム管理者から任されたログイングループに対して、さまざまな権限を有します。

ログイングループ管理者の業務

システム管理者は、intra-martのデータベース設定など共通の設定管理と各ログイングループとその管理者に関する次のような管理を行います。

ログイングループ管理	ログイングループごとのロール、アカウント、アカウントライセンス、メニュー、カレンダー、バッチなどの管理を行います。
アプリケーション共通マスタ管理	ログイングループ上で動作するintra-martアプリケーションで共通に利用されるリソースの管理を行います。リソースには、組織、役職、パブリックグループ分類設定などがあります。
ポータル	ポートレットの登録やログイングループ共通のポータル画面の作成など、ポータルに関わる設定を行います。
ワークフロー	承認ルートの作成など、ワークフローに関わる設定を行います。

ログイングループ管理者でのログイン

ログイングループ管理者は、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 **ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。**
画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-martベースモジュール（スタンドアロン）：http://マシンアドレス：8080/imart/（ログイングループID）.manager
intra-martベースモジュール（分散システム）：Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-martフレームワーク：Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-martベースモジュールをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号（Webサーバとしてのポート）は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。
- この他に、「ログイン画面なしで自動認証する方法」（→P. 48 Column参照）が用意されています。

2 ログイン画面で、ユーザコードと、パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

〈intra-martのログイン画面〉

- 標準のログイングループ管理者のログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準のログイングループ管理者の初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/groupフォルダ
- ログイングループ管理者のログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/group-super-user-security/page-providerタグ内で行います。
- 標準の一般ユーザのログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準の一般ユーザの初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/userフォルダ
- 一般ユーザのログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/user-security/page-providerタグ内で行います。

〈intra-martの初期画面〉

ホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。

intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている[LOGOUT]ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

Column

ログイン画面なしで自動認証する方法

intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めることができます。

http://intramart/imart/(ログイングループID).manager?im_user=xxxx&im_password=yyyy

xxxx:ユーザコード　yyyy:パスワード

上記のURLのように入力してログインすると、ログイン画面なしで自動認証されます。

Column

メニューを利用しない画面遷移

この章では、intra-martの標準のアクセスセキュリティ機能やメニュー画面を使用していますが、im-J2EE Frameworkを利用すると、メニューに登録しなくても以下のURLでアクセスすることができます(下記は標準インストールした場合の例です)。
http://〈ホスト名〉[:〈ポート番号〉]/imart/〈アプリケーションID〉-〈サービスID〉.service
ただし、URL指定による直接表示を行う場合は、すべてのApplication Runtimeのdoc/imart/WEB-INF/web.xmlにて、以下のフィルターマッピングの設定(〈filter-mapping〉)をすべて削除してください。
(intra-mart フレームワークの場合、この設定ファイル編集後に再デプロイを行ってください)

・RequestCharacterEncodingFilter
・ResponseCharacterEncodingSettingFilter
・ResponseCharacterEncodingManagementFilter
・URLAccessFilter
・SessionFilter

Column

ページカラーパターンの変更方法

intra-martは、ページカラーを変更することができます。標準で用意されているカラーは、次の5色で、次の場所に設定ファイルが用意されています。

カラーパターンコード	表示名	CSS パス	イメージパス
blue	青系	/css/design/blue.css	/images/design/blue
gray	グレー系	/css/design/gray.css	/images/design/gray
green	緑系	/css/design/green.css	/images/design/green
orange	オレンジ系	/css/design/orange.css	/images/design/orange
red	赤系	/css/design/red.css	/images/design/red

2 初期設定（クイックスタートナビゲータの操作）

ログイングループを管理し、利用できるようにするには、ユーザの登録、ポータルの設定など初期設定を行わなければなりません。intra-martには、「クイックスタートナビゲータ」機能が用意されており、この画面の従って各種設定をすることで、効率よく初期設定を行うことができます。
クイックスタートナビゲータには、次のような初期設定項目が用意されています。

ユーザを登録するには	ユーザを登録するために必要な、データベース、ロール、組織、役職、パブリックグループ、簡易ユーザ登録などの設定をナビゲートします。
ポータルを利用するには	ポータルを利用するために必要な、データベース、ユーザ、組織、ポートレットの設定をナビゲートします。
ログイングループライセンスを確認するには	ログイングループライセンス確認に必要なデータベース接続とログイングループライセンスの確認画面をナビゲートします。
ユーザライセンスを変更するには	ユーザライセンスを変更するためのデータベースの設定をナビゲートします。
ワークフローを利用するまでの設定を行うには	ワークフローを利用する際に必要となる各種設定をナビゲートします。

クイックスタートナビゲータの操作

ここでは、「ユーザを登録するには」を例にして、クイックスタートナビゲータを利用して初期設定を行う手順を説明します。なお、ここで設定する各設定画面は、メニューから直接操作することもできます。

1 **メニューの「クイックスタートナビゲータ」をクリックします。**
クイックスタートナビゲータの初期画面が表示されます。

＜クイックスタートナビゲータの初期画面＞

2 「ユーザを登録するには」の先頭のアイコンをクリックします。

ユーザを登録するための設定項目が表示されます。上から順番に設定を行います。

＜「ユーザを登録するには」で必要な設定項目の一覧＞

必須	この表示のある項目は、選択した設定を行うためには必ず行わなければならない設定項目です。
任意	この表示のある項目は、必要に応じて行う設定項目です。
未設定	まだ設定されていない設定項目に表示されます。
設定済	すでに設定されている設定項目に表示されます。

3 一覧の上部から設定を行います。「データベース接続の確認」の先頭のアイコンをクリックします。

「データベース接続の確認」の設定画面が表示されます。

＜設定の確認画面＞

4 データベース接続を確認します。設定が必要な画面の場合は、設定を行います。確認や設定が終了したら、画面上部にある「設定済みにして戻る」の先頭のアイコンをクリックします。

画面は、クイックスタートナビゲータの画面に戻ります。「データベース接続の確認」の状態の欄が「設定済」に変わります。前画面で、「戻る」のアイコンをクリックした場合は、「未設定」のままになります。

＜確認・設定後に「設定済にして戻る」をクリックする＞

＜状態の欄が「設定済」になる＞

- 設定項目の状態の欄に「設定済」と表示された、元に戻すことはできません。ただし、同様の操作を行うことで、それぞれの設定画面を表示して、設定を変更することはできます。また、メニューから直接、各設定画面を表示することも可能です。

5 すべての項目を同様の操作で設定し、状態の欄がすべて「設定済」になるようにすれば、初期設定は終了です。

3 ログイングループの設定

システム管理者によって作成された段階で、ログイングループのデフォルトのロケールやエンコーディングなどの設定が行われています。しかし、ログイングループ管理者は、[ログイングループ設定]画面で、ログイングループごとに設定を変更することができます。また、この画面では、ログイングループ管理者のユーザIDやパスワードの設定も行えます。

[ログイングループ]タブ

ここでは、作成するログイングループの基礎データの登録を行います。ここでの設定は、ログイングループのデフォルトの設定となりますが、各ユーザの設定が優先されます。

〈ログイングループ設定画面 ― ログイングループタブ〉

ログイングループID	ログイングループの名称です。
ロケール	このログイングループがデフォルトで使用する言語を選択します。
アカウントロック回数	ログイン時に、ログインIDとパスワードが認証されなかった場合、ここで設定した回数を経過すると、「アカウントロック期間」で設定した分数だけログインの操作ができなくなります。回数を「0」とすると、アカウントロックすることなく、ログインを試行することができます。
アカウントロック期間(分)	アカウントロックされた場合、ここで設定した時間(分)ログインすることができなくなります。
ページカラーパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。

メインページパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面パターンを設定します。画面パターンは、追加、削除することもできます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。 ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

メインページパターンの追加

メインページは、ユーザが追加、削除、そして編集することができます。

〈メインページパターンの追加および編集画面〉

ページパターンID(必須)	ログイン後に表示されるページのパターンID
ページURL(必須)	ログイン後に表示されるページパターンのURL 指定するURLがページベースの場合は、pagesからの相対パスで、最後に拡張子(.jssp)を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
ページイメージURL	ログイン後に表示されるページのパターンの概要イメージ。コンテキストパスからの相対パスで指定する。

[ログイングループ管理者]タブ

[ログイングループ管理者]タブでは、システム管理者が登録したログイングループの管理者のユーザIDやパスワードなどが表示されています。ログイングループ管理者は、ここで設定されているユーザIDやパスワードを変更することができます。

〈ログイングループ設定画面 ― ログイングループ管理者タブ〉

ユーザID（必須）	ログイングループ管理者のログインIDを入力します。
パスワード（パスワード確認）	ログイングループ管理者がログインする際に使用する、パスワードです。
ユーザロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでログイングループ管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	ログイングループ管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、ログイングループ管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	ログイングループ管理者への連絡先としての電話番号です。

4 アカウントライセンスの設定

ログイングループに割り振られたアカウントライセンスは、ログイングループ管理者によってユーザに割り振らなければなりません。アカウントライセンスの設定は、アカウント設定画面でユーザを登録する際にも行えますが、ここで説明する[アカウントライセンス設定]画面を利用すると、効率よく登録されている全ユーザに対して割り振ることができます。
この画面では、特定のアカウントを検索して設定する方法と、全アカウントを表示させて設定する2つの方法が用意されています。

特定のアカウントを検索して設定する

1 **ユーザID欄にアカウントを入力して、[検索]をクリックします。**
ユーザIDは、部分一致で検索されます。

2 **表示されたユーザに対して、ライセンスを割り振る場合は、「ライセンス」をチェックし、[登録]ボタンをクリックします。**

全アカウントを表示させて設定する

1 「アカウントライセンス一覧（検索条件なし）」をクリックします。

ユーザID欄を空白にしたまま、[検索]をクリックしても同様です。

2 表示されたユーザに対して、ライセンスを割り振る場合は、「ライセンス」をチェックし、[登録]ボタンをクリックします。

複数ページある場合は、<<、<、>、>>などのアイコンをクリックすると、それぞれ最前ページ、前ページ、次ページ、最終ページに移動できます。

5 アクセスセキュリティの管理

ここでは、intra-martのアクセスセキュリティについて、その考え方ならびに設定の方法を説明します。intra-martでは、フォルダ/ページへのアクセスをシステム設定の各画面からコントロールします。つまり、作成したプログラムを変更することなく、あらゆるアクセス権を自由にコントロールすることができるようになっています。

intra-martのアクセスセキュリティの考え方

intra-martのアクセスセキュリティは、ユーザに対してアクセス権限を設定します。また、フォルダ/ページに対してもアクセス権限を設定します。ユーザがログインすると、自分が持っているアクセス権限とフォルダ/ページなどが持っているアクセス権限を突き合わせて、アクセス権レベルに応じたフォルダ/ページだけが表示され、アクセスできるようになります。
intra-martで使用できるアクセス権限には、次のようなものがあります。

「ロール」
「組織」
「役職」
「パブリックグループ」

例えば、あるページは、特定の部署（組織）に所属する部長（役職）や特定のロールを持っている人だけがアクセスできるように設定することができます。

〈intra-martのアクセスセキュリティ〉

- ユーザに対するアクセス権限は、ロールに関してはユーザを登録する［アカウント設定］で設定しますが、その他のアクセス権限（組織、役職、パブリックグループ）に関しては、ユーザに対して設定するのではなく、例えば組織に対してユーザを登録します。
- アクセス権限の設定方法のうち「ロール」は本節で解説していますが、「組織」、「役職」、「パブリックグループ」に関しては、本書第2章「8 アプリケーション共通マスタ」を参照してください。

ロールの設定

intra-martのアクセス権限のひとつに、「ロール」があります。あらかじめ[ロール設定]で作成したロールをユーザとフォルダ/ページの双方に設定しておくことで、アクセスセキュリティが機能します。
ロールは、[ログイングループ管理]の[ロール設定]で行います。ロール自身には、アクセス権限の上位または下位はなく、ユーザが自由に作成することができます。ただし、ネスト構造を設定すると、ロール自身に上位または下位の権限が生じます。

〈ロール設定画面〉

カテゴリ(左欄)	登録されているカテゴリが選択できます。選択すると、そのカテゴリに属するロールだけを絞り込んで表示させることができます。カテゴリの登録は、各ロールの設定画面で行います。
ロール名(左欄)	ここに入力した文字列を含む(部分一致)ロールだけを絞り込んで表示させることができます。
(ロール一覧)	現在登録されているロールの一覧が表示されています。カテゴリやロール名で絞り込んで表示させることができます。表示されたロール名をクリックすると、右欄に詳細が表示され、ロールの設定内容を更新できます。
ロールID	システム内部で使用されるロールの識別子です。通常、変更する必要はありません。
ロール名(必須)(右欄)	ロール名を入力します。
カテゴリ(右欄)	ロールを分類するためのカテゴリ名の入力です。ここでカテゴリ名を登録しておくと、ロールを選択する際に、カテゴリ名で絞り込み表示させることができます。
表示名(必須)	アプリケーションなどのロール表示に用いられるロールの名称です。多言語を使用している場合には、コンボボックスで言語を切り替えて、すべての言語について入力する必要があります。

サブロール

現在表示または登録しようとしているロールに包含させたいロールを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。

サブロールの詳細については、次のコラム「ロールとサブロール」を参照してください。

備考

ロールに対する備考を入力します。

- [データインポート]および[データエクスポート]の操作については本書第1章「14 データとプログラムのバックアップ」を参照してください。
- ログインアカウント(ユーザ)についてのみ、Javaから直接操作できるAPIが用意されています。詳細は、APIリストの「ツールズ」の「アカウント情報の操作」を参照してください。

Column

ロールとサブロール

ロールは、ネスト構造を持たせることができるようになっています。
たとえば、図のように「管理者」というロールに、「ゲスト」と「ユーザ」というロールを包含するように設定すると、「管理者」というロールを持ったユーザは、「ゲスト」というロールを持ったページも、「ユーザ」というロールを持ったページも閲覧することができるようになります。

ユーザの登録（アカウント情報とプロファイル情報）

［ログイングループ管理］の［アカウント設定］では、「アカウント」情報とユーザの「プロファイル」情報の登録を行います。「アカウント」情報とは、intra-martへのログインやアクセスセキュリティに関わる情報です。また、ユーザの「プロファイル」情報とは、ユーザ個人の住所や電話番号、メールアドレスなどの情報で、intra-martアプリケーションなどで利用します。通常のユーザは、この2つの情報を同時に持っていますが、「guest」というようなユーザは、ログインするためのアカウント情報は持っていますが、特定の個人ではないためプロファイル情報は持っていません。

なお、登録したユーザのアカウント情報とプロファイル情報は、すべてデータベースに保存されます。

〈アカウント設定画面〉

ユーザの新規登録

次の手順ユーザを登録します。

1 ［ユーザ］で表示されるメニューから［追加］を選択します。

2 [メイン]タブで「ユーザコード」を入力します。

3 [アカウント]タブをクリックし、[ログイン設定]タブの情報を入力します。

パスワード/確認パスワード	ログイン時に使用するパスワードの入力です。
モバイルパスワード/確認モバイルパスワード	モバイルでログイン時に使用するパスワードの入力です。
ライセンス	ログイングループに割り振られているライセンスをユーザに割り振る際にチェックします。ライセンスが割り振られていないと、ログインすることはできません。また、ライセンスの設定は、[ログイングループ管理]の[アカウントライセンス設定]で行うと、すべてのアカウントに対して設定できます。
有効期間	アカウントが有効な期間を表しています。ユーザがこのアカウントでログインするためには、有効期間内でかつライセンスにチェックされていることが必要です。有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」を参照してください。
説明	このアカウントの説明を入力します。

4 [環境設定]タブをクリックして情報を入力します。

ロケール	このアカウントがデフォルトで使用する言語を選択します。ここでの設定よりも、ユーザが[ユーザ設定]の[ロケール設定]で設定したものの方が優先されます。
外出フラグ	外出中を示すフラグで、チェックするとデフォルトで外出中となります。ただし、ここでの設定より、ユーザが[ユーザ設定]の[外出設定]で設定したものの方が優先されます。
ログイン失敗回数	この段階でこのアカウントでのログインに失敗している回数を表示しています。ユーザがこのアカウントでログインに成功していない状態です。ユーザがこのアカウントでログインに成功すると、0にリセットされます。
アカウントロック	チェックするとアカウントロックされ、ログインできなくなります。

Column

有効期間の終了日の取扱い

intra-martでは、さまざまな情報設定項目に有効期間が用意されています。有効期間は、「開始日」と「終了日」を設定しますが、この時システム上では「ユーザが設定した終了日+1」としてデータベースに格納されています。

開始日(1/1) <= ユーザが設定した有効期間 <= 終了日(3/31)
開始日(1/1) <= システム上の有効期間 < 終了日(4/1)

各メンテナンス画面に有効期間を表示する際には、「システム上の終了日−1」として表示しています。

5 ［権限設定］タブをクリックして情報を入力します。

ロール

このアカウントに設定するロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。

アプリケーションロール

このアカウントのユーザにインストールされているアプリケーション（イントラネットスタートパックなど）の利用を認める場合に、アプリケーションを選択入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてアプリケーションが選択できます。

6 ［ページ設定］タブをクリックして情報を入力します。

ページカラーパターン

このアカウントがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。ここでの設定よりも、ユーザが［ユーザ設定］の［カラーパターン設定］で設定したものの方が優先されます。

メインページパターン

このアカウントがデフォルトで使用する画面パターンを選択します。画面パターンは、［ログイングループ管理］の［ログイングループ設定］で登録されたものが表示されます。ここでの設定よりも、ユーザが［ユーザ設定］の［メインページパターン設定］で設定したものの方が優先されます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

7 ［プロファイル］タブをクリックして、プロファイル情報の有効期間を入力します。

[追加]ボタン	初期には、本日からシステムの最大有効日付に設定されていますので、終了日を変更してから、次の期間を入力します。
[変更]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を変更することができます。
[削除]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を削除することができます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。
拡大	期間のリストの表示が拡大されます。

Column

期間の設定について

期間を設定する際には、次のような点に気をつけて登録する必要があります。
複数の期間を登録する場合は、互いに重なる期間を登録することはでできません。
たとえば、以下のような期間を登録することはできません。
(例1)
期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2):2002/01/01 ～ 2008/12/31

(例2)
期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2):2004/12/31 ～ 2008/12/31

次の期間の登録は正常に行われます。
期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2):2005/01/01 ～ 2006/12/31

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

8 [ユーザ]タブの情報を入力します。ここの情報は、期間および言語ごとに入力します。

ユーザ名(必須)	ユーザ名を入力します。[メイン]タブで入力したユーザコードが初期表示されます。
ユーザ名カナ	ユーザ名カナを入力します。
ユーザ名漢字	ユーザ名漢字を入力します。

9 [電話・FAX番号]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

電話番号	電話番号の入力です。
FAX番号	FAX番号の入力です。
内線番号	内線番号の入力です。
内線FAX番号	内線電話番号の入力です。
携帯電話番号	携帯電話番号の入力です。

10 ［住所］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

国コード	国コードの入力です。
郵便番号	郵便番号の入力です。
住所	住所の入力です。多言語化に対応しているので、登録してある言語を切り替えて入力します。

11 ［インターネット］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

メールアドレス1、2	メールアドレスを入力します。2つまで入力できます。
携帯メールアドレス	携帯メールアドレスを入力します。
URL	ホームページのURLを入力します。

12 ［非期間化］タブをクリックして情報を入力します。

ソートキー	この項目はソートを行うための番号を入力する項目です。半角数字で5桁まで入力できます。
備考	備考を入力します。

フォルダ/ページへのアクセス権限の設定

フォルダやページへのロール（アクセス権限）の設定は、［ログイングループ管理］の［メニュー設定］で行います。詳細については、第2章「6 メニュー設定」を参照してください。

その他のアクセス権限（組織・役職・パブリックグループ）の設定

組織・パブリックグループといったアクセス権限の設定は、［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］と［パブリックグループ設定］で、それぞれの登録画面で所属するユーザを設定します。役職については、［組織設定］で所属するユーザを設定するときに、役職を選択することになります。詳細については、第2章「8 アプリケーション共通マスタ」を参照してください。

アクセスセキュリティのインポート

この画面では、アクセスセキュリティのエクスポートで書き出しておいた設定情報をインポートすることができます。インポートしたいファイルのパスを記述して、[インポート]ボタンをクリックします。

〈アクセスセキュリティのインポート画面〉

アクセスセキュリティのエクスポート

この画面では、アクセスセキュリティ関連の設定情報をエクスポートすることができます。書き出しておいた設定情報は、[アクセスセキュリティインポート]で戻すことができます。インポートしたいファイルのパスを記述して、[エクスポート]ボタンをクリックします。

〈アクセスセキュリティのエクスポート画面〉

Column

ログイン画面なしでintra-martを起動する方法

①ログイン画面およびメニュー画面を利用しない方法（アクセスセキュリティモジュールを使用しない）
詳細については、APIリストのオリジナルアプリケーションの作成方法を参照してください。

②ログイン画面のみを利用しない方法（アクセスセキュリティモジュールを使用しない）
intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めると、ログイン画面なしで自動認証されます。
http://サーバアドレス/ imart/(ログイングループID).portal?im_user=xxxx&im_password =yyyy
xxxx：ユーザコード　yyyy：パスワード

Column

アクセスセキュリティの標準実装

● 標準実装における情報の保管場所
アクセスセキュリティ情報のベースモジュール標準実装における保管場所は以下のようになっています。

アクセスセキュリティ情報	保管場所	特記事項
対応ロール	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/locale_*.properties
対応クライアント	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/client_*.properties
対応カラーパターン	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/color_*.properties
システムデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
メッセージ	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/message/*.properties
システムメニュー	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system-menu.xml
システム管理者	Permanent Data Server	
ログイングループ	Permanent Data Server	
グループデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
グループ管理者	Permanent Data Server	
アカウント	ログイングループのデータベース	アカウントのパスワードを暗号化
ロール	ログイングループのデータベース	
メニュー	ログイングループのデータベース	
カレンダー	ログイングループのデータベース	
バッチ	ログイングループのデータベース	

●標準実装における注意点
アクセスセキュリティ情報の中で、ログイングループに属するアカウント、ロール、メニュー、カレンダー、バッチは、データベースに保管されます。これらの情報について更新APIを用いて更新する場合、トランザクション内で更新処理を行ってください。

アクセスセキュリティ新機能

以下に、Ver5.xにおけるアクセスセキュリティの新機能を紹介します。

国際化対応

システムに対応言語を追加することができ、ユーザ単位で表示言語を切り替えることが可能です。

情報保管場所の変更

アクセスセキュリティ情報の保管場所を任意に変更することができます。
設定ファイルで、更新モジュールを取り替えることが可能です。
また、更新モジュールを複数設定することにより、同時に複数のデータストアに保存することが可能です。

更新系APIに対するリスナーの追加

アクセスセキュリティ情報の更新イベントをハンドルすることができます。
設定ファイルで、各リスナーを追加することが可能です。

認証方式のカスタマイズ

ユーザ認証時にさまざまな認証方式を実装することが可能です。
設定ファイルで、認証方式を変更することが可能です。
標準実装では、
・標準認証モジュール　　ベースモジュールのアカウント情報のパスワードで認証します。
・LDAP認証モジュール　　LDAPに登録されているユーザ情報のパスワード認証します。
また、ユーザ独自の認証モジュールを実装することによりさまざまな認証方式を実現できます。

ログイン画面、メイン画面のカスタマイズ

ログイングループ単位にログイン画面および標準のメイン画面を変更することが可能です。
設定ファイルで、ログイン画面および標準のログイン画面を変更することが可能です。

■メイン画面パターンの追加

ログイングループ単位で標準のメイン画面以外のメイン画面を追加することができます。
設定画面で、追加するメイン画面を設定できます。
設定されたメイン画面の一覧から各ユーザがメイン画面を自由に選択できます。

■ダイレクトURL機能

ログイン後のメイン画面を指定して、ログイン認証処理を行うことができます。
認証処理後に、指定したログイン画面を表示することができます。

例）ログイン画面表示時に、メイン画面を指定します。

http://サーバ名:ポート/imart/default.potal?im_url=メイン画面パス&im_url_sign=ダイレクトURL署名

メイン画面パス　　: *.jssp(ページベース) , *.service(im-J2EE-framework) ,*.jsp(JSP) etc
ダイレクトURL署名　: AcccessSecurityManagerのcreateUrlSignatureメソッドより作成します。

6 メニュー設定

メニュー設定とは、ユーザの画面に表示されるメニューを設定する画面です。この画面では、メニューに表示されるフォルダやページの追加、削除、更新などの操作が行えます。また、フォルダや各ページには、アクセス権限を設定することで表示させるユーザを制御することができます。アクセスセキュリティの詳細は、第2章「5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

〈一般ユーザ用のメニューを設定する画面〉

新規フォルダの作成

メニューに新規フォルダを追加するには、上部にある[新規フォルダ]アイコンをクリックします。新規に作成されたフォルダは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したフォルダをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の[新規登録]ボタンをクリックします。

〈新規フォルダの作成〉

表示名（必須・ロケール）

フォルダの作成時には、登録されているロケールすべてについてフォルダ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するフォルダ名のロケールを選択します。

表示名（必須・名称）

選択したロケールに対応したフォルダ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてフォルダ名を入力します。

クライアントタイプ

PCかモバイル用かを選択します。ここで登録するフォルダをパソコンからのアクセスで表示するか、i-modeなどモバイルからのアクセスで表示するかを制御します。

備考

フォルダに関する備考を入力します。

［ロール］タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。

［組織］タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。

[役職]タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。

[パブリックグループ]タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。

新規ページの作成

メニューに新規ページを追加するには、上部にある[新規ページ]アイコンをクリックします。新規に作成されたページは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したページをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の[新規登録]ボタンをクリックします。

〈新規ページの作成〉

表示名(必須・ロケール)	ページの作成時には、登録されているロケールすべてについてページ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するページ名のロケールを選択します。
表示名(必須・名称)	選択したロケールに対応したページ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてページ名を入力します。
クライアントタイプ	PCかモバイル用かを選択します。ここで登録するページをパソコンからのアクセスで表示するか、i-modeなどモバイルからのアクセスで表示するかを制御します。
URL(必須)	実際に表示したいページのURLを記述します。記述は、システムルートからの相対表示となります。
引数	ページ起動時に必要な引数がある場合には、ここで[追加]ボタンをクリックして登録します。登録した引数は、いつでも更新・削除することができます。
備考	このページに関する備考を入力します。

[ロール]タブ

このページに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。

[組織]タブ

このページに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。

[役職]タブ

このページに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。

[パブリックグループ]タブ

このページに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。

新規ページ(外部URL)の作成

メニューに新規ページとして外部URLを追加するには、上部にある[新規ページ(外部URL)]アイコンをクリックします。操作は、新規ページの作成を参照してください。

フォルダやページの更新と削除

既存のフォルダやページを更新や削除するには、まずツリー上で該当するフォルダやページを選択します。右に詳細な情報が表示されるので、変更することができます。変更の反映は、[更新]ボタンで行います。フォルダやメニューを削除するには、選択した状態で、[削除]アイコンをクリックします。

フォルダやページの表示順の変更

既存のフォルダやページの表示順序を変更するには、ツリー表示で該当するフォルダやメニューを任意の位置までドラッグします。ドラッグした先がページの場合は、そのすぐ次に移動します。
ドラッグした先がフォルダの場合には、そのフォルダの中あるいは配下への移動かを選択するメニューが表示されます。

〈フォルダを別のフォルダにドラッグした場合の例〉

7 アプリケーションの登録

開発者が作成したアプリケーション（ページベース開発モデルでは、プレゼンテーションページとファンクションコンテナのセット、J2EEベース開発モデルではJSP、Servlet）をintra-martのメニュー画面から実行できるようにするには、次のような登録手順が必要になります。
Permanent Data Serviceがインストールされたフォルダ下に新規フォルダを作成し、この中に開発者が作成した、すべてのアプリケーションが保存されている前提で説明します。
アプリケーションの登録の全体の流れは以下のようになります。

1 アプリケーションの保存

2 「フォルダ」の登録

3 「ページ」の登録

4 アクセスセキュリティ（ロール）の設定

5 再ログイン

〈アプリケーションの登録手順〉

- アプリケーションを登録するには、事前にユーザの登録、ロール（アクセス権）の設定などが行われている必要があります。
- ページのアクセスセキュリティの設定に関する操作は、第2章「5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

フォルダとページ

intra-martでは、作成したアプリケーション全体を「フォルダ」に登録します。通常のアプリケーションでは、ひとつの「フォルダ」とその中に含まれる複数の「ページ」から構成されることになります。それぞれの「ページ」は、ページベース開発モデルではプレゼンテーション・ページ（HTMLファイル）とファンクション・コンテナ（JavaScriptファイル）のセット、J2EEベース開発モデルではJSP（JSPファイル）または、Servlet（JAVAのクラスファイル）になります。ただし、intra-martではメニューツリーのどの階層にでもフォルダやページを置くことができます。

〈フォルダとページ概念〉

- intra-martベースモジュールやintra-martフレームワークを利用して構築するアプリケーションは、このフォルダ/ページのフレームを利用したメニュー構成が基本となります。このメニュー構成を利用することで、アクセスセキュリティの機能を使用することが可能になります。

アプリケーション登録の操作

1 アプリケーションの保存

作成したアプリケーションに関連するすべてのファイルを所定の場所に保存します。

ページベース開発モデルのファイルの保存先	%Resource service%/pages/ディレクトリに保存
J2EEベース開発モデルのファイルの保存先	%Application Runtime%/doc/ディレクトリに保存

2 「フォルダ」の登録

[ログイングループ管理]の[メニュー設定]で、フォルダを新規登録します。フォルダの登録の操作に関しては、第2章「6 メニュー設定」を参照してください。

3 「ページ」の登録

フォルダと同様にページを登録します。ページの登録の操作に関しては、第2章「6 メニュー設定」を参照してください。

＜パスの指定方法＞

- **ページベース開発モデルの場合**
  パスは、intra-martをインストールしたフォルダ/pagesからの相対パス(拡張子は.jssp)です。
- **J2EEフレームワーク(im-Framework)を利用せず、自作のServletやJSPをページに登録する場合**
  intra-martのURLがhttp://hostname:port/imart/intramartだとすると
  ①「/」で始まる場合
  「/hello」と指定するとhttp://hostname:port/helloとして呼び出される。
  ②パスの終端に拡張子が付いている場合
  「hello.jsp」と指定するとhttp://hostname:port/imart/hello.jspとして呼び出される。
  ③「 ://」 が含まれる場合
  「http://abc/hello.jsp」と指定すると http://abc/hello.jsp として呼び出される。
- **J2EEフレームワーク(im-Framework)で作成したアプリケーションをページに登録する場合**
  URLにXXXX-YYYY.service
  アプリケーションID ： XXXX
  サービスID ： YYYY
  (XXXX,YYYY部分は「プログラミングガイド J2EEベース開発モデル編」を参照してください。

4 再ログイン

「フォルダ」や「ページ」関連マスタメンテナンスの操作を行った場合には、再ログインする必要があります。登録したフォルダ/ページへのアクセス権が正しく設定されたユーザでログインすると、登録したアプリケーションが実行できるようになります。

- ページのアクセスセキュリティの設定に関する操作は、本書「5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。
- 「インポート/エクスポート」の操作については、第1章「14 データとプログラムのバックアップ」を参照してください。

8 アプリケーション共通マスタ

組織/グループとユーザ情報の管理

会社データ、組織データ、グループデータなどシステム開発でよく利用するマスタが標準で用意されています。これらのマスタは、各intra-martアプリケーションシリーズで共通に利用されています。また、これらのマスタのテーブル構造にアクセスするためのAPIなども公開されており、システム開発時に自由に利用できます。詳細内容については、別冊「アプリケーション共通マスタ説明資料」を参照してください。

組織の設定［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］

intra-martは、さまざまな場面で組織を利用して動作しています。例えば、アクセス権限などにおいては、アクセス権の設定対象としてここで設定した組織を利用しています。また、intra-mart上で動作するアプリケーションを作成する際にも、この組織を利用することができます。
組織の設定は、まず会社を登録し、その会社に属する事業部や部・課・係などの部署を登録します。部署は階層構造を形成することができます。
設定した部署に対しては、どの階層に対してでも社員（ユーザ）を登録することができますし、複数の部署に所属させる（兼務）こともできます。あらかじめ［ログイングループ管理］の［アカウント設定］で「プロファイル」が登録されてるユーザを紐づけることで社員の登録となります。

会社の登録に関して
- 組織の設定では、複数の企業を登録することができるようになっています。そして、それぞれの会社に対して事業部や部・課などの部署や社員を登録できます。
  複数の企業として、子会社や協力会社、取引先、顧客企業などを登録することによって、イントラネットシステムから本格的なBtoBシステムへと発展させることができるようになっています。

組織の期間管理

現実の会社の組織は、時間の経過と共に常に変化します。それに伴い、intra-martに登録してある組織も現実に合わせて変更しなければなりませんが、アプリケーションによっては困った現象が起ります。例えばワークフローを伴うアプリケーションで、何らかの事情によって過去日で処理を行う場合です。intra-martの組織を現在の組織に変更してしまっているため、過去日で申請を行って上司の承認を得ようにも組織が異なるため申請が行えません。また、未来日に関しても同様ですし、組織変更の期日をまたがるような申請を行った場合、申請後に部署が存在しないという矛盾が生じる場合があります。intra-martでは、上記のようなアプリケーションの要求に応えるため、組織の履歴をすべて残しておくことができるようになっています。**この組織の履歴を管理する機能が「期間管理」です。**

〈組織の期間管理〉

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

「部署の期間」と「組織構成の期間」

会社・部・課などの名称等は、時間の経過と共に変化ます。期間管理は、これらの情報に対して、変更があるたびに「この期間はこの情報」、「次の期間はこの情報」と、更新のたびに履歴を残して行きます。過去(あるいは未来)日で情報を確認したり処理を行う場合には、この蓄積されているその時点での情報をもとに処理が行われるようなアプリケーションを作成することができるようになります。
「部署」は、それぞれの情報が個別に変更履歴を持っています。これらの個別の変更履歴を総称して、**「部署の期間」**と呼んでいます。実は、それ以外に**「組織構成の期間」**という概念が存在しています。これは、部署などの階層化情報の期間管理です。

〈期間管理される2つの要素:「組織」と「組織構成」の違い〉

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

「部署の期間」と「組織構成の期間」の関係

「部署の期間」と「組織構成の期間」には密接な関係があります。これは、「部署」が持っている期間と、その「部署」を階層化した「組織構成」が持つ期間に矛盾が生じてはならないということです。
例えば、下図のように組織構成2を作成した場合、その組織構成に加えるためには、各部署（組織A～C）は、組織構成と同じ「期間」を持っている必要があります。下図のように、組織Bの期間が不足していると、組織構成2に加えることができなくなります。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い（p.65）」も参照してください。

Column

期間管理を使用せずに組織を登録するには

特に期間管理を行う必要がない場合には、すべての期間を同じに設定（値は何でも構わない）します。すべての部署と組織構成を同じ期間に設定すれば、上記のように期間の矛盾が生じて登録ができないといったことは起りません（なお、終了日はブランクのままにしておいて構いません）。
期間管理は、その必要があるアプリケーションを作成した場合（あるいは利用する場合）にだけ、厳密に管理する必要が生じます。

組織設定画面の構成

それでは、実際に期間管理を利用して、組織構成の登録方法について説明します。[アプリケーション共通マスタ管理]の[組織設定]には、大きく3つの画面が用意されていて、用途によって使い分けることができます。

■会社一覧

[アプリケーション共通マスタ管理]の[組織設定]を選択したときの初期画面です。この画面では、会社の登録、削除および会社が保有する「組織構成の期間」の登録、更新、削除を行うことができます。登録初期には、現在日～終了日(空欄)として登録します。その後、組織構成に変更があったら、最初の組織構成の終了日を入力し、その翌日からスタートする新しい組織構成を追加します。
この画面から会社を登録することができますが、あくまで組織構成の期間を登録するための会社登録となります。会社も組織のひとつであるため、あらためて「組織一覧」画面で会社名などの属性情報を登録する必要があります。

[アプリケーション共通マスタ設定]の[組織設定]の初期画面

会社と組織構成の期間の新規登録と更新・削除が行えます。

新規とコピー・削除ボタン

会社の登録と削除、組織構成の期間の追加・削除、そしてコピーが行えます。

組織構成の期間一覧

会社名と組織構成の期間が一覧表示されます。
会社名はシステム日付時点のものが表示されます。

会社と組織構成期間詳細

新規会社の登録と組織構成の期間の追加・更新などの詳細を設定します。

■組織一覧

この画面では、会社一覧で選択された会社の組織構成、およびそれに属する部署の登録、更新、削除を行うことができます。

「会社一覧」画面で会社とその組織構成の期間を選択後、「組織一覧へ」をクリックして表示する。

選択した会社の組織構成画面

部署の追加や削除など組織構成を編集することができます。

新規/削除

部署の新規登録、削除が行えます。

組織構成ツリー

組織構成を階層表示します。部署名は組織構成の期間の開始日時点のものを表示します。

組織詳細

部署がもつ属性情報を期間、言語毎に設定します。

Column

会社・組織名のソートについて

組織一覧やパブリックグループの画面で「会社・組織名」でソートをした場合、スラッシュ(/)で区切られた最後の部署の名前(カナ)でソートされます。以下のような組織の場合に、「会社・組織名」で昇順にソートすると例2のようになります。

例1) サンプル会社
- サンプル部門01
  - サンプル課11
  - サンプル課12
- サンプル部門02
  - サンプル課11
  - サンプル課12

例2) サンプル会社 / サンプル部門01 / サンプル課11
サンプル会社 / サンプル部門01 / サンプル課12
サンプル会社 / サンプル部門02 / サンプル課21
サンプル会社 / サンプル部門02 / サンプル課22
サンプル会社
サンプル会社 / サンプル部門01
サンプル会社 / サンプル部門02

■すべての組織

この画面では、組織構成に関係なく部署の登録、更新、削除を行うことができます。

会社の新規登録

ここでは、新規に組織設定を行う場合の一般的な操作の手順を説明します。

1. **会社の登録** 【会社一覧】画面
   組織構成の期間が同時に作成される
2. **会社の属性登録** 【組織一覧】画面
   会社名、住所などの登録
3. **部署の登録** 【組織一覧】画面
   階層化して組織構成を作成する
4. **部署の属性登録** 【組織一覧】画面
   部署名、住所、メンバーなどの登録

会社の組織構成の階層を作成します。
部署は、新規作成と同時に属性の登録が行えます。
手順３と４の操作を、部署の数だけ繰り返します。

〈組織設定のフロー〉

■会社の登録

［アプリケーション共通マスタ管理］-［組織設定］の会社一覧画面で登録します。会社の新規登録時には、同時に一つ目の「組織構成の期間」が登録されます。

〈会社の登録画面〉

1 **会社を登録するには、［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］をクリックします。**

［会社・組織］画面が表示されます。

2 **［会社・組織］画面で、［新規］ボタンをクリックして、表示されるメニューから［会社］を選択します。**

左のツリーで登録されている会社や期間が選択されている場合には、［会社］と［期間］というメニューが表示されます。

〈会社組織画面〉

3 会社に対する、最初の期間化情報をカレンダのアイコンをクリックして入力し、[登録]ボタンをクリックします。

終了日欄は、終了日が決まっている場合にのみ入力します。決まっていない場合には、特に入力する必要はありません。

〈会社の期間を登録する〉

4 ツリーに会社と最初の期間化情報が表示されます。

ここでは会社名は入力されておらず、「名称未設定」となります。会社の名称入力は、組織一覧画面で、会社の属性設定で行います。

〈会社が登録される〉

■会社の属性登録

会社を登録しても、会社の属性情報の登録が行われていないと、会社名欄には「名称未設定」と表示されています。会社も組織構成要素のひとつですから、組織一覧画面に遷移して、会社に関するさまざまな属性情報を登録します。詳細な操作は、「部署の属性登録」(p.100)を参照してください。

■部署の登録

会社と会社の属性の登録が終了したら、組織を追加して組織構成の階層を作成します。部署の登録は、[組織一覧]画面で行います。

1 [組織一覧]画面の組織構成のツリーから、これから登録する部署の上位の部署を選択し、[新規]ボタンをクリックします。

新規部署の属性設定画面が表示されます。

〈部署を登録して組織構成を作成する〉

2 部署名など属性を設定して、[登録]ボタンをクリックします。

左のツリーに作成した部署が表示されます。

〈部署名など属性を設定する〉

■部署の属性登録

部署の登録時には、同時に部署の属性情報の登録が行えます。操作の詳細は、「部署の属性登録」(p.100)を参照してください。

組織構成の変更−1：新規に組織構成を作成する

会社の組織構成が変更になったら、組織構成期間を追加します。ここでは、新規に組織構成を作成する場合の説明をします。部分的な組織構成の変更は、次で説明する「組織構成期間をコピーして作成する」を参照してください。

1. **現・組織構成期間の変更【会社一覧】画面**
   現在の組織構成終了日を組織改定日に変更する
2. **新・組織構成期間の登録【会社一覧】画面**
   組織構成を新規作成する
3. **部署の登録または移動 【組織一覧】画面**
   階層化して組織構成を作成する
4. **部署の属性登録 【組織一覧】画面**
   部署名、住所、メンバーなどの登録

会社の組織構成の階層を作成します。
以前の組織構成時の部署が「構成に属さない組織」として存在するので、移動して活用できます。
部署は、新規作成と同時に属性の登録が行えます。
手順３と４の操作を、部署の数だけ繰り返します。

■現・組織構成期間の変更

通常は、現在の組織構成期間の終了日は空欄になっています。このままでは、新しい組織構成期間を登録することができないので、現在の組織構成期間の終了日を組織改定日の前日に変更します。

1 組織改定日に合わせて、組織構成期間の終了日を設定します。

終了日を組織改定日の前日に変更します。

〈現在の組織構成の期間を更新する〉

■新・組織構成期間の登録

次に、新しい組織構成期間を作成します。

1 組織構成期間を追加登録する会社が選択されていることを確認して、[新規]ボタンの[期間]をクリックします。

画面には、新規の組織構成期間の「期間」が表示されています。開始日は、現在の組織構成期間の翌日に、終了日は空欄になっています。

〈新しい組織構成期間を追加する〉

2 期間を確認して、[登録]ボタンをクリックします。

左の会社一覧に、新しい組織構成期間が表示されます。

〈追加した構成期間が表示される〉

■部署の登録または移動

新しい組織構成期間には、部署などが何も登録されていないので、新しい組織構成を登録します。または、以前の組織構成の部署が「構成に属さない組織」に表示されますので、部署を移動して組織構成を作成します。

部署を移動する方法には、2通りあります。組織一覧のツリー表示上で「ドラッグアンドドロップで部署を移動する」方法と、もうひとつは、移動させたい部署の属性情報で「親組織を指定して部署を移動する」方法です。新規に部署を登録する方法に関しては、「部署の登録」(p.92)を参照してください。

≪ドラッグアンドドロップで部署を移動する≫

1 [組織一覧]画面のツリー表示上で、移動させたい組織の先頭のアイコンをドラッグします。

組織のアイコン以外の部分では、ドラッグできません。

〈組織をドラッグして移動する〉

2 移動したい組織をドラッグして、親組織に重ねます。

重ねた組織の子組織となるように移動が行われます。

≪親組織を指定して部署を移動する≫

1 移動させたい組織の属性情報の[メイン]タブで、「親組織」欄のアイコンをクリックします。

親組織を選択するダイアログボックスが表示されます。

〈親組織を選択して移動する〉

2 表示されたダイアログボックスで、親組織を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが閉じ、選択した組織の子組織となるように移動が行われます。

〈親組織を選択する〉

■部署の属性登録

部署の属性情報は、部署登録時に同時に登録することができます。これらの操作の詳細は、以降の「部署の属性登録」(p.100)を参照してください。

組織構成の変更−2:組織構成期間をコピーして作成する

新しく改定する組織構成が現在の組織構成に近い場合には、現在の組織構成期間をコピーして作成する方法が用意されています。

1. **現・組織構成期間の変更**【会社一覧】画面
   現在の組織構成終了日を組織改定日に変更する
2. **組織構成期間のコピー**【会社一覧】画面
   現・組織構成期間をコピーする
3. **部署の登録または移動**【組織一覧】画面
   階層化して組織構成を作成する
4. **部署の属性登録**【組織一覧】画面
   部署名、住所、メンバーなどの登録

会社の組織構成の階層を作成します。
以前の組織構成時の部署が「構成に属さない組織」として存在するので、移動して活用できます。
部署は、新規作成と同時に属性の登録が行えます。
手順3と4の操作を、部署の数だけ繰り返します。

■現・組織構成期間の変更

通常は、現在の組織構成期間の終了日は空欄になっています。このままでは、新しい組織構成期間を登録することができないので、現在の組織構成期間の終了日を組織改定日の前日に変更します。

1 組織改定日に合わせて、組織構成期間の終了日を設定します。

終了日を組織改定日の前日に変更します。

〈現在の組織構成の期間を更新する〉

■組織構成期間のコピー

次に、現在の組織構成期間をコピーして、新しい組織構成期間を作成します。

1 組織構成期間を追加登録する会社の組織構成期間が選択されていることを確認して、[コピー]ボタンをクリックします。

画面には、新規の組織構成期間の「期間」の設定ウインドウが表示されます。

〈現在の組織構成の期間をコピーして新しい構成期間を作成する〉

2 新しい組織構成期間の開始日を選択入力して、[OK]ボタンをクリックします。

終了日欄は空欄でも構いません。

〈新しい組織構成の期間を設定する〉

■部署の登録または移動

新しい組織構成期間がコピーにより作成されました。部署などは、すべて以前のものがコピーされているので、最新のものに変更します。

部署の登録や移動の操作に関しては、「組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する」の「部署の登録または移動」(p.95)を参照してください。

■部署の属性登録

部署の属性情報は、部署登録時に同時に更新することができます。これらの操作の詳細は、以降の「部署属性の設定」(p.100)を参照してください。

組織構成を削除する

すでに登録されている組織構成期間を削除すると、その期間に登録されている組織構成が削除されます。ただし、組織構成に属していた部署そのものは削除されません。

1 削除する組織構成期間を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

〈削除する組織構成の期間を選択して[削除]ボタンをクリックする〉

2 選択されている組織構成期間が削除されます。

この組織構成期間にだけ登録されている部署があった場合には、その部署は削除されてしまうのではなく、「構成に属さない組織」というフォルダに移動しています。

〈部署は削除されずに「構成に属さない組織」フォルダに残る〉

- 構成に属していない部署は、「期間化情報」タブで組織の期間を設定すれば、他の組織構成の期間で利用することができます。

部署の属性登録

ここでは、部署（会社も含む）の名称や住所などの属性情報の設定について説明します。会社も組織構成の要素のひとつですから、ここで操作手順で属性情報の設定を行います。

1 ［組織一覧］画面のツリーから属性を更新したい部署を選択し、右側で詳細を入力します。最初は、メインタブです。登録後は、次のタブに移動します。

〈メインタブの入力〉

組織コード（必須）	作成したときの会社コードが表示されています。
親組織	会社入力では選択できません。組織の場合は、どの組織に所属するかを設定します。
ソートキー	会社一覧に表示される順番を番号で指定します。
備考	会社に対する備考を入力します。
更新ボタン	各タブでの入力が終了してから、更新をクリックします。

2 属性タブをクリックして、公開ゾーン、検索属性、販売チャネルなどの情報を登録します。登録後は、次のタブに移動します。

〈属性タブの入力〉

公開ゾーン	公開ゾーンを設定します。設定は、各項目の［期間］ボタンをクリックして、表示されるウインドウで期間を設定します。
検索属性	公開ゾーン同様に検索属性を設定します。
販売チャネル	販売チャネルを入力します。
更新ボタン	各タブでの入力が終了してから、更新をクリックします。

- 公開ゾーンと検索属性については、後述のコラム「アプリケーション共通マスタの高度な利用」を参照してください。

3 メンバータブでは、会社に属するメンバーの登録、そのメンバーへの役職の設定、主所属の設定などが行えます。

操作の詳細は、「部署への所属および役職情報の設定」(p.107)を参照してください。

〈メンバータブの入力〉

4 選択している部署に関する住所、電話などの属性情報の登録が行えます。これらの情報は、すべて履歴化されているので、期間の情報と共に登録します。

〈期間化情報タブの入力〉

5 **期間化情報の各タブの情報を入力していきます。この画面では、期間の追加・修正・削除を行うことができます。**

〈期間化情報の更新〉

[追加]ボタン	初期には、本日からシステムの最大有効日付に設定されていますので、終了日を変更してから、次の期間を入力します。
[変更]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を変更することができます。
[削除]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を削除することができます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。
拡大	期間のリストの表示が拡大されます。

Column

期間の設定について

期間を設定する際には、次のような点に気をつけて登録する必要があります。複数の期間を登録する場合は、互いに重なる期間を登録することはでできません。たとえば、以下のような期間を登録することはできません。

(例1)　期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31　　期間(2):2002/01/01 ～ 2008/12/31

(例2)　期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31　　期間(2):2004/12/31 ～ 2008/12/31

次の期間の登録は正常に行われます。
期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31　　期間(2):2005/01/01 ～ 2006/12/31。

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

Column

部署の一部の情報だけを更新する

会社の構成期間を追加することによって組織構成の履歴を登録する方法を説明していますが、部署の名称など、一部の情報だけが変更になった場合に、新しい組織構成期間を追加しなくても変更情報の履歴を残す方法が用意されています。
会社の組織構成期間はそのまま継続させて、部署の属性情報が持つ期間化情報を追加して、履歴を残します。部署属性の[期間化情報]タブで、新しい期間化情報を登録して、部署名や電話番号などの一部の情報だけを変更します。

1 [修正]ボタンで、部署の期間化情報の終了日を、属性変更日の前日に変更します。

2 [追加]ボタンで、属性変更日から開始する、新しい期間を登録します。

3 新しい期間を選択して、名称などの属性を変更します。

6 [組織名]タブの情報を入力します。ここの情報は、期間および言語ごとに入力します。

〈[期間化情報]の[組織名]タブ〉

組織名(必須)	組織名を入力します。[メイン]タブで入力したユーザコードが初期表示されます。ここで入力した組織名がツリーにも表示されます。
組織名カナ	組織名カナを入力します。
組織名漢字	組織名漢字を入力します。

7 [電話・FAX番号]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

〈[期間化情報]の[電話・FAX番号]タブ〉

電話番号	電話番号の入力です。
FAX番号	FAX番号の入力です。
内線番号	内線番号の入力です。
内線FAX番号	内線電話番号の入力です。

8 ［住所］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

〈［期間化情報］の［住所］タブ〉

国コード	国コードの入力です。
郵便番号	郵便番号の入力です。
住所	住所の入力です。多言語化に対応しているので、登録してある言語を切り替えて入力します。

9 ［インターネット］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

〈［期間化情報］の［インターネット］タブ〉

メールアドレス1、2	メールアドレスを入力します。2つまで入力できます。
URL	ホームページのURLを入力します。

● プラグインタブは将来の拡張のためのものです。現在は使用できません。

部署への所属および役職情報の設定

部署に対しては、属性情報のひとつとして、メンバーの登録があります。これは、その部署に社員を所属させる機能です。また、所属させた社員に対しては、役職の設定と主所属の設定が行えます。

1 部署への社員の設定 【組織一覧】画面
部署に所属する社員を設定する

▼

2 役職の設定 【組織一覧】画面
設定した社員に役所を設定する

▼

3 主所属の設定 【組織一覧】画面
設定した社員の主所属を設定する

■部署への社員の設定

部署に社員をメンバーとして登録するには、部署の属性情報への登録という操作になります。ここでは、社員を登録するとともに、その社員の役職と主所属の設定が行えます。

1 組織設定画面で、会社の組織構成期間を選択してから、[組織一覧へ]をクリックします。

社員をメンバーとして設定するために、組織一覧画面を表示します。

2 部署の属性情報の[メンバー]タブで、[追加]アイコンをクリックします。

[メンバーの追加]ダイアログボックスが表示されます。

〈メンバーの追加〉

3 ［メンバー一覧］ダイアログボックスで社員を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

［Shift］あるいは［Ctrl］キーで、複数の社員をまとめて選択することができます。選択が終了したら、［閉じる］ボタンをクリックします。

〈メンバーの選択〉

4 属性情報画面に戻ったら、［更新］ボタンをクリックします。

登録した社員への役職の設定や主所属の設定は、一度更新しないと行えません。なお、登録した社員は、［削除］キーで削除することができます。

- ユーザを組織に新規追加すると、部署とユーザの一致する期間が所属期間として設定されます。また、所属期間の中でユーザ主所属をもたない期間があれば、その期間を主所属期間として設定します。

■役職の設定

メンバーとして登録した社員には、役職を設定することができます。役職は、あらかじめ［アプリケーション共通マスタ管理］の［役職設定］で登録しておく必要があります。

1 上記社員の登録の後、役職を設定したい社員を選択して、［期間］ボタンをクリックします。

［期間一覧］のダイアログボックスが表示されます。

〈［期間］ボタンをクリックする〉

2 [期間一覧]のダイアログボックスで、登録されている役職を選択し、[登録]ボタンをクリックします。

役職は、あらかじめ「役職設定」で登録しておきます。期間に関しては、登録先の部署がもつ期間の範囲で設定することができます。[追加]ボタンをクリックすることで、期間を設定して別の役職を設定することもできます。

〈役職の設定〉

■主所属の設定

登録した社員が複数の部署に所属する場合は、そのひとつを「主所属」として設定することができます。主所属に関しても、期間管理されています。

1 上記社員の登録の後、主所属を設定したい社員を選択して、[主所属]ボタンをクリックします。

[主所属期間一覧]のダイアログボックスが表示されます。

〈[主所属]ボタンをクリックする〉

2 ［主所属期間一覧］のダイアログボックスで、主所属の組織名を選択します。

組織名には、社員として登録されている部署が表示されます。期間に関しては、登録先の部署がもつ期間の範囲で設定することができます。［追加］ボタンをクリックすることで、期間を設定して別の主所属を設定することもできます。

〈主所属の設定〉

部署の削除

組織一覧では、組織の削除を行うことができます。組織の削除では、その組織のすべてが削除されてしまい、再利用することはできません。また、配下に子組織を持つ組織を削除した場合には、該当する組織は削除されますが、子組織は、「構成に属さない組織」というフォルダに移動しており、再利用することができます。

〈部署の削除〉

会社の削除

会社一覧では、会社自体の削除を行うことができます。会社に属する部署、組織構成などすべての情報が削除されます。

〈会社の削除〉

組織設定時のメッセージ一覧

組織設定時に、期間の設定に矛盾が生じているとメッセージが表示され、登録や更新が行えない場合があります。以下は、表示されるメッセージと、原因ならびに対処法を表にしたものです。

画面	イベント	期間のエラー条件	メッセージ	対処法
会社一覧－会社新規作成	登録ボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
会社一覧－新規－期間	登録ボタン押下時	期間が重複している	設定された期間(yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd)と(yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd)が重なっています。重ならないように設定し直してください。	他の期間と日付が重ならないように修正する。
		期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		追加した期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。
会社一覧－更新	更新ボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		会社の期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。
会社一覧－会社コピー－新しい期間を入力POPUP	OKボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		コピーして新しく設定した期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。

組織一覧－メンバータブ－期間一覧POPUP画面（ユーザの所属期間設定）	登録ボタン押下時	ユーザの所属期間が、組織の期間の範囲外	設定された所属の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が正しくありません。組織の期間内（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）で設定して下さい。	ユーザの所属期間を組織の期間内で設定する。
		ユーザの所属期間が、プロファイルの期間の範囲外	設定された所属の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が正しくありません。ユーザに対して設定された期間内（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）で設定して下さい。	ユーザの所属期間をプロファイルで設定してある期間内で設定する。
		期間の前後が逆	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が不正です。終了日は開始日より後の日付を指定してください	期間の前後を修正する。
		期間が重複している	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）と期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）に期間の重なりがあります。	他の期間と日付が重ならないように修正する。
組織一覧－メンバータブ－主所属一覧POPUP画面（主所属ユーザの期間設定）	登録ボタン押下時	主所属期間が、組織の期間の範囲外	設定された主所属の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が正しくありません。組織の期間内（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）で設定して下さい。	主所属の期間を組織の期間内で設定する。
		主所属期間が、プロファイルの期間の範囲外	設定された主所属の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が正しくありません。ユーザに対して設定された期間内（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）で設定して下さい。	主所属の期間をプロファイルの期間内で設定する。
		主所属期間がユーザの所属期間の範囲外	設定された主所属の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が正しくありません。所属期間内（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）で設定して下さい。	主所属の期間をユーザの所属期間内で設定する。
		期間の前後が逆	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が不正です。終了日は開始日より後の日付を指定してください	期間の前後を修正する。
		期間が重複している	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）と期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）に期間の重なりがあります。	他の期間と日付が重ならないように修正する。
会社一覧－期間化情報タブ	更新ボタン押下時	期間が重複している	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）と期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）に期間の重なりがあります。	他の期間と日付が重ならないように修正する。
		期間の前後が逆	期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）が不正です。終了日は開始日より後の日付を指定してください	期間の前後を修正する。
組織一覧	組織一覧でドラッグ＆ドロップ	移動元の組織の期間が、移動先の組織構成の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間（yyyy/mm/dd - yyyy/mm/dd）に合わせて下さい。	移動元の組織の期間を移動先の期間内に設定する。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い（p.65）」も参照してください。

役職の設定

[ログイングループ管理]の[役職設定]では、会社ごとに役職を登録することができます。役職に関しても履歴化が図られているので、期間情報を登録した上で入力します。
ここでは、役職を登録するだけで、ユーザとの紐付けは、[組織設定]で組織に所属するメンバーを登録する際に、この[役職設定]で登録した役職名を選択することができます。

〈役職の登録画面〉

1 **役職を登録するには、[アプリケーション共通マスタ管理]の[役職設定]をクリックします。**
[役職]画面が表示されます。

2 **[会社コード]にコードを入力して[検索]ボタンをクリックします。[会社コード]欄に何も入力せずに検索すると、すべての会社が表示されます。**
左のツリーに登録されている会社とそれぞれに登録されている役職が表示されます。

〈登録されている会社と役職が表示される〉

3 ツリーの会社を選択して、[新規]ボタンをクリックします。

役職の新規登録画面が表示されます。

〈新規に役職を登録する〉

4 期間の欄の、[追加]ボタンをクリックして、役職の期間を登録します。

〈期間を追加する〉

[追加]ボタン	新規に期間を追加することができます。
[修正]ボタン	選択した期間情報を変更することができます。
[削除]ボタン	選択した期間情報を削除します。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

5 役職名などを登録し、[登録]ボタンをクリックします。

役職が登録されます。

〈役職の情報を登録する〉

役職コード(必須)	役職コードを入力します。
役職名(必須)	役職名を入力します。この項目は、国際化に対応しているので、言語ごとに入力します。
ソートキー	役職一覧などに表示される順番を数値で指定します。
備考	備考を入力します。
[登録]ボタン	入力した役職を登録します。

パブリックグループの設定

パブリックグループは、企業内の部門など組織にとらわれないユーザグループを作成したい場合に利用します。プロジェクトなど企業内で認められたグループに利用します。パブリックグループの登録は、[アプリケーション共通マスタ管理]の[パブリックグループ設定]で行います。パブリックグループも組織と同様に履歴化や階層化に対応しています。パブリックグループの設定の操作は、組織の設定に準じています。

〈パブリックグループ登録画面〉

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.65)」も参照してください。

アプリケーション共通マスタインポート

アプリケーション共通マスタで登録する、会社・組織、役職、ブリックグループ、ユーザプロファイルなどの情報は、[アプリケーション共通マスタ管理]の[アプリケーション共通マスタインポート]で、インポートすることができます。

〈アプリケーション共通マスタインポート画面〉

Column

アプリケーション共通マスタの高度な利用（公開ゾーンと検索属性）

intra-martでは、ユーザを会社・組織、パブリックグループ、プライベートグループなどにグルーピングして管理しています。この他に「公開ゾーン」と「検索属性」という2つのキーで高度なグルーピングを行うことができます。

●公開ゾーン

公開ゾーンは、作成するアプリケーションの性格によって会社・組織などの公開範囲を変更したい場合に使用します。例えば、社内スケジュール管理では全組織・社員を表示しますが、取引先も含めたコミュニティ・アプリケーションでは、自社の一部の組織のみ公開したいといった用途に公開ゾーンを利用します。

公開ゾーンは、[アプリケーション共通マスタ管理]の[分類設定]で登録することができます。

〈[分類設定]画面〉

●検索属性

検索属性は組織にのみ付くキーで、組織の役割を定義します。例えば、「ある会社・組織は顧客検索に表示したい（下図の「カスタマ」に相当します）」、「ある組織は協力会社一覧に表示したい（下図の「パートナ」に相当します）」という要件を実現するために使用します。

検索属性は、[アプリケーション共通マスタ管理]の[分類設定]で登録することができます。

〈[検索属性設定]画面〉

公開ゾーンと検索属性を利用したアプリケーションの構築方法については、別冊の「アプリケーション共通マスタ説明資料」を参照してください。

9 ポータルの設定と操作

intra-martには、ログイン初期画面（intra-martホーム画面）にあらかじめ用意したページ（ポータルアプリケーションでは、ポートレットと呼びます）を表示し、ユーザに情報を見るように喚起させることができる機能が標準で用意されています。このポータル機能は、intra-martのポータルモジュールで実現されています。

組織部署単位にポータルサイトを設定したり、個人単位の設定をすることで、組織内での情報伝達のスピードアップが図れる

会社（顧客、取引先）単位にポータルサイトを設定することにより、
ECサイトやマーケットプレイスにおいて、サービスレベルを大きく向上させることができる

〈会社・組織、ユーザごとのポータル〉

intra-mart上のアプリケーションごとに表示させたい情報のページを作成し、ポートレットとして登録することで利用できるポートレットとなります。このようにして作成したポートレットは、自由にレイアウトしてポータル画面を作成することができます。また、ワークフローモジュールやWebMailなどのintra-martアプリケーションの一部には、ポートレット画面があらかじめ用意されているものもあります。

ログイン
intra-martにログインすると、初期画面にポータル画面が表示される

ポートレット配置
登録したポートレットをポータル画面に配置する

ポートレット登録
各アプリケーションで作成したページを「ポートレット設定」画面でポートレットとして登録する

ポータルの種類と作成メニュー

intra-martに用意されているポータル画面には、次の表のような4種類が用意されています。これらのポータルの主な違いは、表示させるユーザの範囲の違いで、ログイングループ全員に見せるものから、自分だけのポータルまで用意されています。さらに、アクセス権限を設定することで、特定のユーザの画面にだけ表示させることも可能です。さらに、グローバルポータル以外のポータルは、複数作成することができます。

ポータルの種類	表示される場所	作成者	基本表示範囲	アクセス権の設定
グローバルポータル	ログイン前の画面	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	なし
グループポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	会社・組織 パブリックグループ ロール
組織内ポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	一般ユーザ 組織のポータル管理者	作成者が主所属の組織（配下の組織は含まず）	配下の組織
ユーザポータル	intra-martHOME画面（タブとして）	一般ユーザ	作成者自身	なし

ログイン画面に表示されるポータル

グローバルポータルは、アクセス権限の設定もなく、ログイングループ全員に表示されるポータルです。このポータルはログイン画面に表示されるため、ログインするためのポートレットが用意されています。

〈グローバルポータル〉

intra-martホーム画面に表示されるポータル

グループポータル、組織ポータル、そしてユーザポータルは、intra-martホーム画面に表示されます。各ポータルは、タブとして表示され、簡単に切り替えることができます。また、intra-martのどの画面にも、常に[HOME]ボタンが表示されていて、クリックするだけでホーム画面が表示されます。

〈intra-martのHOME画面　タブによって3つのポータルが切り替えられる〉

■標準で提供されるポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
リンク集		3列以下	
ログインポートレット		3列以下	グローバルポータルでのみ設定可
朝日新聞RSS		3列以下	サンプルとして提供
新着タスク	ワークフロー	3列以下	

■intra-martアプリケーションに付属のポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
今週の予定	スタートパック	2列以下	
今日の予定	スタートパック	3列以下	
新着ToDo一覧	スタートパック	3列以下	
新着お気に入り情報	スタートパック	2列以下	
新着配信情報	スタートパック	3列以下	
伝言メモ	スタートパック	3列以下	
最新見積一覧	営業支援	3列以下	
最新受注一覧	営業支援	3列以下	
新着営業日報一覧	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着上司コメント	営業支援／スタートパック	3列以下	
メール受信状況	WebMail	3列以下	

ポートレット用ページの作成

ページベース開発モデルおよびJ2EEベース開発モデル、フレームワーク開発モデル、外部URLでポータル画面に表示させたいページをポートレット用に作成します。なお、intra-martには、あらかじめサンプルのポートレット用のページが用意されています。

- ポータルとして表示させたい画面は、通常の画面ではなく、ポータルモジュールの規約にともない変更する必要があります。ポータル用のページ作成方法については、APIリストの[J2EEベース開発モデル]-[業務基盤ツールズ]-[ポータルモジュール]-[ポータル]-[開発ガイド]および[ページベース開発モデル]-[業務基盤ツールズ]-[ポータルモジュール]-[ポータル]-[開発ガイド]を参照してください。

ポートレットとして登録

ポートレット用に作成したページをポートレットとして登録します。設定は、[ポータル]-[ポートレット]で行います。

1 **ポートレット設定画面を表示します。**

登録されているポートレットの一覧が表示されます。新規に登録するには、[新規登録]をクリックします。登録されているポートレットを編集するには、ポートレット名の前のアイコンをクリックします。

〈登録されているポートレットの一覧〉

Column

ポートレットのキャッシュ機能

キャッシュ機能を利用すると、サーバ内に作成されたキャッシュ情報が読み込まれるため、ポートレットの表示が高速になります。
ポータルに表示する各ポートレットごとにキャッシュの設定を行うことができます。

2 ポートレットを追加します。

表示された画面で、ポートレットの情報を登録して、[登録]ボタンをクリックします。

〈ポートレットとしてページを登録する〉

アプリケーション	ポートレットのもとになるアプリケーション名を入力します。
名称(必須)	ポートレットの名称を入力します。この名称がポータルの設定画面に表示されます。
ページの種別(必須)	ポートレットの種類を次から選択します。
PresetaionPage	ページベース開発モデルで作成した場合に選択します。
J2EE Framework	im-J2EE Frameworkを利用して作成した場合に選択します。
Servlet or JSP	J2EEでページを作成しているが、im-J2EE Frameworkを利用していない場合に選択します。
InterNet	Webサイトの場合に選択します。
画面パスあるいはURL	ポートレットが存在するパスまたはURLを入力します。
ページ引数	登録するページに引数がある場合に指定します。
アプリケーションID	ポートレットの元となるアプリケーションのIDを指定します。
サービスID	サービスIDを指定します。
SSO	簡易SSO設定画面に表示する場合、「使用する」を選択します。
タイトルの表示	ポートレットのタイトルバーを表示する、表示しないを選択します。
キャッシュの設定	ポートレットの表示内容をサーバ内にキャッシュする場合のキャッシュ時間を選択します。
ポートレットの説明	ポートレットの説明を入力します。

Strutsで作成したページをポートレットに登録するには（J2EEベース開発モデル）

JSPで作成したページと同様に登録します。下記の例を参考にしてください。

例）　ページの種類　　［Servlet or JSP］

　　パスあるいはURL　　/struts_test/menu_to_seller_list.do（先頭に/をつけます）

SSOのパラメータを変更するには

アカウントとパスワードのパラメータはusername,passwordがデフォルトとなっています。

パラメータを変更するには次のファイルのuserName,passwordの値を変更してください。

doc/imart/WEB-INF/classes/PortalCommonConfig.properties

デフォルトでは、以下のように設定されていてアカウントとパスワードを入力しなくてもログインできる機能です。

http://サーバ名?account=XXX&password=YYY

XXX：アカウント名　YYY：パスワード

3 ポートレット設定画面に戻ります。次に、［アクセス権設定］アイコンをクリックします。

ポートレットを登録した段階では、ログイングループ全員が利用できます。特定のユーザや組織での利用の場合は、アクセス権設定のアイコンをクリックして、権限を設定します。

〈登録されているポートレットの一覧〉

4 アクセス権設定画面で、［検索］アイコンをクリックします。

〈ポートレットのアクセス権の設定〉

5 会社・組織、パブリックグループ、ロールのいずれかを設定してこのポートレットに対するアクセス権限を設定します。

設定すると、アクセス権設定画面に戻ります。

〈アクセス権限設定画面〉

6 アクセス権設定画面に、設定したアクセス権が表示されます。

詳細アイコンをクリックすると、さらに詳細な条件を設定できます。

〈アクセス権限設定画面〉

- 組織内ポータルとユーザポータルのポートレット配置画面に、「選択可能なポートレット」というリストが表示されます。ポートレットにアクセス権を設定しておくと、設定したアクセス権を持つユーザの画面にだけ表示されるようになります。ポートレットのアクセス権を設定しないと全ユーザに表示されます。

全ログイングループに公開するグローバルポータル

グローバルポータルは、ログイン画面を利用して、情報を表示させることができるポータルです。ログイン画面が表示されることがなくなるため、用意されているログイン用のポートレットを必ず配置してください。このポータルに限り、1つしか作成することができません。このポータルの配信を中止するには、編集画面で［削除］ボタンをクリックします。

〈グローバルポータル〉

1 ［グローバルポータル］をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。すでにポータルを設定してある場合は、現在のポータルのレイアウト画面が表示されます。

2 ポータルのデザインを選択して、［次へ］をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、次のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

〈グローバルポータルが設定されていない場合には、ポータルのレイアウト選択画面が表示される〉

〈すでにグローバルポータルが設定されている場合の初期画面〉

3 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[完了]をクリックします。

上部の[選択可能なポートレット]からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。このとき、必ず[ログインポートレット]を配置してください。配置しないと、ログインすることができなくなります。レイアウト枠では、や アイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

〈ポートレットとしてページを登録する〉

4 グローバルポータルが完成です。全ログイングループのユーザがログインする際に表示されます。

Column

ポータルのカスタムレイアウト

ポータルのレイアウト選択画面には、定型的なレイアウトパターンが用意されていますが、この画面で「カスタム」を選択すると、自由にレイアウトを決めることができます。

① 「カスタム」を選択して、[次へ]アイコンをクリックします。

② マウスでドラッグして、最大5×5までの基本レイアウトを決めます。

③ セルをドラッグして、結合、行や列の追加・削除を用いて、カスタムレイアウトパターンを作ります。

④ [次へ]アイコンをクリックすると、ポートレット配置画面に遷移します。

会社・組織で情報を共有するグループポータル

グループポータルの基本は、全ログイングループのユーザに表示されます。作成後、組織・役職、パブリックグループ、ロールなどのアクセス権限を設定することで、表示範囲を任意に制限することができます。なお、グループポータルは、intra-martのホーム画面上に表示されます。

1 [グループポータル]をクリックします。

登録されているポータルの一覧が表示されます。

〈グループポータル一覧〉

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、前頁のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

〈ポータルのレイアウト選択画面〉

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の[選択可能なポートレット]からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、やアイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

〈ポートレットを配置する〉

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

6 アクセス権のアイコンをクリックします。

〈ポータル一覧〉

7 アクセス権設定画面が表示され、[検索]ボタンをクリックします。

アクセス権設定画面が表示されます。

〈アクセス権設定画面〉

8 アクセス権を選択します。

〈アクセス権設を選択する〉

9 アクセス権設定画面に戻ります。

設定した情報が表示されています。これで、グループポータルは完成です。

〈アクセス権設定画面〉

- グループポータルに設定したアクセス権を持つユーザのホーム画面のタブに、ここで設定したポータルが表示されます。

リンク集の作成（リンク集ポートレットの設定）

ここで設定したリンク集は、intra-martに用意されている「リンク集ポートレット」に表示されます。「リンク集ポートレット」を利用する前には、この設定をしておかなければなりません。

1 ［リンク集］をクリックします。

画面に、すでに登録されているカテゴリが表示されています。

2 下部のリンク集のカテゴリとソーとキーを入力し、［登録］ボタンをクリックします。

<リンク集のカテゴリの登録>

3 左のツリーから、リンク集を登録したいカテゴリをクリックし、右画面から［新規登録］クリックします。

〈カテゴリの編集アイコンをクリックする〉

4 リンク集の情報を登録して[登録]ボタンをクリックします。

〈リンク集の登録〉

カテゴリ(必須)	登録するカテゴリを選択します。
名称(必須)	この名称がリンク集に表示されます。
URL(必須)	リンクするサイトのURLを入力します。
ソート番号	表示順をきめるソート番号を入力します。
説明	リンクの説明を入力します。

5 リンク集ポートレットを利用したポータル画面に、ここで登録したリンク集が表示されます。

10 バッチ管理の操作

バッチ実行したいロジックを記述したバッチプログラムを作成し、バッチ設定画面で起動日時を設定します。バッチに関する設定は、[システム設定]フォルダの[バッチスケジューラ]フォルダ内のメニューで行います。

- バッチプログラムはview(画面)を持たないため、J2EE Frameworkを利用して作成することはできません。
- 画面やWebの仕組みに関わる機能(ファイルのダウンロードなど)を行うこともできません。
- バッチ管理モジュールを利用するには、Schedule Serviceが動作していることが前提になります。
- バッチ機能を利用するには、intra-martの定義ファイル(imart.xml)の設定などが必要となります。

バッチプログラムの作成と登録

バッチプログラムは、次のような手順で作成し登録します。

1 バッチプログラムを作成・保存

2 バッチ処理登録

3 バッチ管理制御(バッチ機能の起動と停止)

〈バッチプログラムの作成と登録のフロー〉

1 JavaScriptによりバッチプログラムを作成

バッチプログラムを記述したファンクション・コンテナを作成します。

- バッチ管理モジュールは、ファンクション・コンテナ上に記述されているinit()関数を、設定に従って指定時刻に自動実行します。
  init()関数は、通常のファンクション・コンテナと同様の形式で記述します。
  function init(argV) {・・・}
  バッチ起動情報がオブジェクトの形式で引数として渡されます。

または、Javaによりバッチプログラムを作成

バッチプログラムを記述したクラスを作成します。

- jp.c.intra_mart.foundation.service.provider.batch.ProcedureComponentを実装して作成します。インターフェース仕様に関しては、APIリストを参照して下さい。
- 作成したクラスはコンパイルして、Application Runtimeの動作している環境においてクラスパスの設定されているディレクトリ内に保存してください。

2 バッチプログラムの登録

作成したバッチプログラムを登録します。バッチ処理登録は、[ログイングループ設定]の「バッチ設定」で[新規登録]アイコンをクリックして行います。

〈[バッチ処理一覧]画面〉

〈バッチプログラムの新規登録画面〉

有効/無効	バッチプログラムを有効/無効を切り替えます。
バッチID(必須)	バッチプログラムのIDが表示されます。通常は、そのまま利用します。
バッチ名(必須)	バッチプログラムに付ける名称を入力します。
実行プログラム言語(必須)	バッチプログラムを入力したプログラムの記述言語を選択します。JavaまたはJavaScriptが選択できます。
実行プログラムパス(必須)	手順1で作成したバッチプログラムのパスを入力します。
実行時間	バッチプログラムを実行する日時を指定します。

3 バッチプログラムの起動と停止

バッチプログラム一覧のまたは各バッチプログラムの詳細画面の［有効/無効］ボタンをクリックして、［有効］にします。

Column

サンプルプログラムの紹介

ここで説明した内容は、サンプルプログラムとして用意されています。これらはファンクションコンテナ(JavaScript)で作成したバッチプログラムのサンプルです。JAVAによるバッチプログラムの作成に関しては、APIリストを参照してください。

ワークフローの自動催促バッチプログラム　：/workflow/batch/wfk_prs010.js
ワークフローの自動パスバッチプログラム　：/workflow/batch/wfk_pas010.js

11 カレンダーの設定

カレンダー設定では、曜日、会社独自の休日や営業日等を管理する機能を持っています。また、この画面で、カレンダーIDを増やすことで複数のカレンダーを設定でき、本社と工場など異なるカレンダーを利用するアプリケーションの作成が可能となっています。ここでは、カレンダーの設定方法について説明します。

カレンダーデータの追加

カレンダーには、一般的な祝祭日など、基本的なカレンダー設定データが登録されています。これに、独自のデータを追加する操作について説明します。

1 **[ログイングループ管理]の[カレンダー設定]メニューをクリックします。**
[カレンダー更新]画面が表示されます。

〈カレンダーマスタメンテナンス画面〉

2 ［新規追加］をクリックします。

右フレームに新規登録画面が表示されます。既存項目を選択したときには、右フレームに更新・削除画面が表示されます。

〈カレンダーマスタメンテナンス画面〉

カレンダーID（必須）	このカレンダーは、複数のカレンダー設定を登録できますが、これから登録するデータをどのカレンダー設定に登録するかを選択します。
データID（必須）	カレンダーデータの内部コードです。通常はそのまま利用します。
データタイプ（必須）	このカレンダーでは、［名称］、［休日］、［非休日］、［公休日］に分類されていますので、この中から選択します。
データ名（必須）	データ名を入力します。
年月日	データを日付で指定する場合に入力します。
第何週	データが毎週繰り返される日付で指定する場合に入力します。
第何曜日	この項目を選択したときは、次の曜日とセットで利用します。ここでは、第何番目の指定曜日かを選択するときに使用します。例第2水曜日
曜日	データを曜日で指定する場合に入力します。
開始年・終了年	データの有効期限を入力します。
プラグイン関数	この設定が有効になるための特殊な条件を判定する関数です。あらかじめ用意してあるプラグイン関数の中から選択できます。
表示名（必須）	多言語化に対応していますので、登録されている言語ごとに、表示名称を入力します。
表示色（必須）	このデータがカレンダーに表示されるときの色を選択します。なお、［表示確認］ボタンをクリックすると、完成イメージが表示されます。

カレンダー設定の新規追加

標準で用意されている設定以外に、新規にカレンダーの設定を登録するには、次のように操作します。

1 ［新規追加］をクリックします。

右フレームに新規登録画面が表示されます。ここまでは、カレンダーデータの追加と同様です。

〈カレンダーマスタメンテナンス画面〉

2 データ入力の際に、「カレンダーID」の項目を選択するのではなく、新しいIDを入力します。

3 データの追加と同様に、一つ目のデータを続けて入力して、［登録］ボタンをクリックします。

新しい

カレンダー設定として登録されます。

12 ViewCreator

ViewCreatorは、intra-martの画面上からデータベースを操作することができるツールです。既存のデータベースから、そのデータ構造を読み取り、データを明細表示するビュー画面と詳細データの参照更新が行えるフォーム画面を自動生成します。データベースから直接データ構造を読み取るほかに、テーブル定義ファイルなどの情報からビューやフォームを作成することもできます。表示項目を絞り込んだり、並び順の変更、項目単位のアクセス権設定などが用意されていますので、既存データベースをもとにしたEUC（エンドユーザコンピューティング）が実現できます。

アプリケーションの新規作成

指定した既存データベースまたはDDLファイルあるいは、あらかじめ作成したクエリーからデータ構造を読み取り、ビュー画面と詳細データ参照更新画面を生成します。

1 ［ViewCreator］メニューから［アプリケーションメンテナンス］をクリックします。

既存のアプリケーション名が表示されます。

〈既存アプリケーション一覧〉

2 ［新規作成］アイコンをクリックします。VIEWクリエイターの作成ウィザードが起動します。

利用するデータベースを選択後、VIEWを作成する方法を選択します。

〈VIEWを作成する方法を指定する〉

データベース名	システム設定で複数のデータベースを作成している場合は、ここで利用するデータベース名を選択します。
保存カテゴリ名	作成するアプリケーションは、カテゴリでまとめることができます。ここで、分類するカテゴリ名を入力します。
VIEWの作成方法の選択	
既存テーブルから作成する	コンボボックスからテーブルを選択して、そのVIEWを作成します。
DDLファイルから作成する	DDLファイルからの場合は、[参照]ボタンをクリックして、DLLファイルを選択します。
クエリーから作成する	あらかじめ[クエリーメンテナンス]で作成したクエリーがコンボボックスに表示されます。ここで、選択したクエリーを元に、VIEWを作成します。
[開始]ボタン	設定後、このボタンをクリックするとVIEWクリエイターの次の画面に移行します。

3 **既存テーブルの項目が表示され、主キーとする項目をチェックします。または、主キー用の新たなカラムを追加します。指定後、[設定]ボタンをクリックします。**

なお、選択したテーブルと同じテーブルが主キー用の新たなカラムを追加して、すでにViewCreatorに登録されているか「クエリーから作成する」を選択していると、この画面は表示されず、次のステップに移ります。

〈主キーの指定〉

4 **アプリケーション名を指定します。ここで指定したアプリケーション名が、intra-martメニューの「アプリケーション一覧」の配下に表示されます。**

〈アプリケーション名の設定〉

5 ロールを指定します。

ここで指定したロールを持つユーザの画面に、このアプリケーション名が表示されます。

〈ロールの設定〉

6 ウィザードが終了し、作成したアプリケーションの編集画面となります。この画面で、作成したビューとフォームのカラムなどの詳細を編集することができます。

〈アプリケーションの編集画面〉

クエリーメンテナンス

クエリーメンテナンスでは、「アプリケーションメンテナンス」画面で「クエリーから作成する」を選択してVIEWを作成するときに利用する「クエリー」を作成する機能です。

1 [ViewCreator]メニューから[クエリーメンテナンス]をクリックします。

作成されているクエリー一覧が表示されます。

〈クエリー一覧画面〉

2 [新規登録]アイコンをクリックします。クエリー作成ウィザードが起動します。

利用するデータベースを選択後、クエリー名などを設定し、[開始する]アイコンをクリックします。

〈VIEWを作成する方法を指定する〉

データベース名	システム設定で複数のデータベースを作成している場合は、ここで利用するデータベース名を選択します。
クエリー名	作成するクエリーの名称を入力します。この名称で、クエリー一覧に表示されます。
備　考	作成するクエリーにつける備考を入力します。
一覧から選択して作成する	テーブルを選択してクエリーを作成します。
SQLを直接編集する	次画面でSQL文を直接入力してクエリーを作成します。
[開始する]ボタン	設定後、クリックするとテーブルの設定画面に移行します。

3 既存のテーブルがすべて表示され、使用するテーブルを選択して、「選択されたテーブル一覧」に移します。選択後は[表示設定へ]アイコンをクリックします。

選択を解除するには、テーブル名を選択後[≪]で戻します。

〈使用するテーブルの選択〉

4 [条件の設定]画面で、[結合緒条件の追加]アイコンをクリックして、画面下部で結合条件を作成して、[追加]ボタンをクリックします。作成された条件は、上部に一覧として表示されます。条件作成後は、[完了]アイコンをクリックします。

[プレビュー]アイコンをクリックすると、設定した条件で別ウインドウにプレビューが表示され、確認することができます。

〈結合条件を設定する〉

〈設定した結合条件でプレビューを表示する〉

5 **[完了]アイコンをクリックすると、クエリー一覧に戻り、作成したクエリーが一覧に表示されます。**

クエリーの作成が終了すると、[アプリケーションメンテナンス]画面の「クエリーから作成する」のコンボボックスに、ここで作成したクエリーが表示されます。

クエリーの編集

[クエリーメンテナンス]画面で登録されているクエリーの先頭のアイコンをクリックすると、クエリーの編集を行うことができます。

〈クエリーの編集画面〉

左側のツリーから「SQL」を選択すると、SQL文が表示され、直接編集が行えます。

〈SQLの編集画面〉

アプリケーションの編集

アプリケーション作成後、またはアプリケーションの一覧で先頭のアイコンをクリックすると、アプリケーションの編集画面になります。この画面で、アプリケーションの詳細について編集することができます。

〈アプリケーションの編集画面〉

VIEW

ビューに関して、ロールやカラム、使用するフォームの編集が行えます。

ロール	ビューにロールを割り当てます。このロールを持つユーザがビューを表示することができます。
カラム編集	ビューのカラム名称、検索可否、表示・非表示、ソート順を編集することができます。

使用フォーム	ビューの編集用フォームを選択します。

FORM

フォームに関して、ロールやカラムの編集が行えます。

ロール	フォームにロールを割り当てます。このロールを持つユーザがフォームを利用することができます。
カラム編集	フォームのカラム名称、表示・非表示、ソート順を編集できます。

アイコン	各カラムの属性を編集することができます。

アプリケーションの起動

作成したアプリケーションは、intra-martの「アプリケーション一覧」に表示されます。アプリケーションを起動すると、選択したテーブルの内容を表示し、フォームを利用してデータの編集ができます。
［アプリケーション一覧］メニューから、該当するアプリケーション名をクリックします。
アプリケーションのビューが表示されます。

〈アプリケーションのビュー画面〉

新規作成	フォームが表示され、データを追加することができます。

〈テーブルまたはDDLファイルの指定〉

CSVダウンロード	表示されているビューのデータを、CSV形式でダウンロードすることができます。
VIEWの選択	用意されているビューを選択することができます。
クイック検索	クイック検索欄に入力した文字列でデータを検索することができます。カラム編集で「検索可」となっているカラムが検索対象となります。
昇順・降順	カラムを並び替えるときのソート順を選択します。
カラム名	各カラム名をクリックすると、昇順または降順に並べ替えることができます。
アイコン	フォームが表示され、選択したデータを編集することができます。

intra-mart The Power for Enterprise Web Solution

ベースモジュール
/フレームワーク

第3章

一般ユーザ編

1 intra-martへのログインとログアウト

Webベースの開発ツールであるintra-martは、通常のコンピュータソフトとは起動と終了の方法が異なります。Webベースのアプリケーションでは、ブラウザ上から本システムへ「ログイン」で使用できるようになり、終了時は「ログアウト」で終了させます。

一般ユーザのログイン

一般ユーザは、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。

画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-martベースモジュール(スタンドアロン):http://マシンアドレス:8080/imart/(ログイングループID).portal
intra-martベースモジュール(分散システム):Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-martフレームワーク:Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-martベースモジュールをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号(Webサーバとしてのポート)は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。
- この他に、「ログイン画面なしで自動認証する方法」(→P. 134 Column参照)が用意されています。

2 ログイン画面で、ユーザコードと、パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

ユーザ名とパスワードを入力

初期状態

グローバルポータルが設定されている場合
(レイアウトは設定により変ります)

〈intra-martのログイン画面〉

〈intra-martの初期画面 – グループポータルや組織内ポータルが設定されている〉

- 初期画面のメインページ(右フレーム内)は、ポータル画面となっています。新しくポートレットを作成してポータル機能に登録することにより、様々な情報を初期表示することができます。ユーザが自分自身のために作成する「ユーザポータル」も用意されています。詳細は、本章「4 ポータルの利用」を参照してください。

intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている[LOGOUT]ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

パスワードの変更

ログイングループ管理者が発行する初期のパスワードは、ユーザの画面から自由に変更することができます。設定は、[ユーザ設定]の[パスワード変更]で行います。

〈パスワードの変更画面〉

- モバイルパスワードの変更に関しては、本章「8 i-modeの利用」を参照してください。

Column

ログイン画面なしで自動認証する方法

intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めることができます。

http://intramart/imart/(ログイングループID).portal?im_user=xxxx&im_password=yyyy

xxxx：ユーザコード　yyyy：パスワード

上記のURLのように入力してログインすると、ログイン画面なしで自動認証されます。

2 intra-martのメニュー構成と基本画面

intra-martのメニュー表示形式は、「フォルダ」という大分類と「ページ」から構成されていて、ページを選択すると該当する画面が表示されます。フォルダおよびページは、ログイン（起動）したユーザのアクセス権に応じたものだけが表示されるので、ログインしたユーザによって異なります。

〈フォルダとページの関係〉

メニューの表示

intra-martのメニュー表示では、画面左フレームにツリー構造のメニューが表示されます。大項目である「フォルダ」をクリックすると、そこに属する「ページ」がツリーに表示されます。ここで、「ページ」を選択すると、これに該当する画面内容が表示されます。

〈メニュー表示画面の例〉

intra-martのホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して、各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。
この画面からintra-martのポータル画面への切り替えが行えます。画面の切り替えは、右画面の左上のタブで切り替えることができます。

[HOME]ボタン	ホーム画面に戻ります。ホーム画面はintra-martログイン時に表示される画面で、ポータル画面が設定されているときには、この画面で切り替えることができます。
[LOGOUT]ボタン	intra-martを終了して、ログイン画面に戻ります。
[MENU ON/OFF]ボタン	左側のメニューをOn/Offします。メニューをOffにすると、画面が広くなって、作業が容易になります。この機能は、ブラウザにInternet Explorerを使用している場合にのみ利用できます。
[ポータル切り替え]タブ	設定されているポータル画面を切り替えることができます。ポータル画面の詳細は、第3章「4 ポータルの利用」を参照してください。

ロケール設定

intra-martは、多言語化に対応していて、画面表示の言語を切り替えることができます。例えば、同じintra-martアプリケーションを利用していて、海外駐在所では現地の言語で表示させることが可能となります。標準では日本語のみに対応していますが、intra-martで動作するアプリケーションもこの機能を利用している必要があります。言語の切り替えは、[ユーザ設定]の[ロケール設定]で行います。

〈使用する言語を選択するロケール設定〉

メインページパターン設定

メインページパターンとは、intra-martの標準以外の画面デザインが用意されている場合に、切り替える機能です。切り替えは、[ユーザ設定]の[メインページパターン設定]で行います。

〈ページのデザインを変更するメインページパターン〉

カラーパターン設定

カラーパターンは、intra-martが標準で用意している画面の色だけを変更する機能です。標準で青、グレー系、緑系、オレンジ系、赤系の5色が用意されています。初期には、「システムデフォルトを使用する」が設定されています。これは、ログイングループ管理者が設定したログイングループ共通のカラーパターンです。ただし、ユーザがこの画面で設定したカラーパターンが優先されます。

〈ページのデザインを変更するメインページパターン〉

3 マイメニューの利用

よく利用する画面は、「マイメニュー」に登録してオリジナルのメニューを作成することができます。この機能を利用して、頻繁にアクセスするページをリスト化しておけば、ページをツリー表示されたメニューから探し出してアクセスしなくても、リスト中からワンクリックでアクセスすることができるようになり、快適にアプリケーションを利用できるようになります。
マイメニューは、閲覧権限の与えられたメニューの中からユーザごとに設定することができます。

〈表示されたマイメニューとリロードアイコン〉

- マイメニューの設定では、自分以外のユーザのマイメニューを設定したり、管理者が特定のユーザのマイメニューを設定したりすることはできません。

マイメニューの設定

マイメニューの設定は、[ユーザ設定]-[マイメニュー設定]で、ユーザごとに行います。

1 [ユーザ設定]-[マイメニュー]を選択し、[マイメニュー追加]をクリックします。

ログインしているユーザに閲覧権限がある画面の一覧が表示されます。

2 マイメニューに登録したい画面をチェックして、[追加]アイコンをクリックします。

3 マイメニューとして選択した画面の一覧で、メニューへの表示名称、表示する順番などの設定を行い、[更新]ボタンをクリックします。

不要な画面は、チェックボックスで選択し、[削除]アイコンをクリックします。

(チェックボックス)	チェック後[削除]ボタンをクリックすることで、マイメニュー設定から外すことができます。
エイリアス	マイメニューとして画面に表示されるメニュー名で、自由に表示名称を変更することができます。
ページ	表示されるページのメニュー名です。
ソート	メニューの表示順を数字を入力して制御することができます。

5 **設定後に、メニューにリロードボタンが表示されます。これをクリックすると、設定したマイメニューが表示されます。**

〈表示されたマイメニューとリロードアイコン〉

4 ポータルの利用

intra-martには、ログイン初期画面（intra-martホーム画面）にあらかじめ用意したページ（ポータルアプリケーションでは、ポートレットと呼びます）を表示し、ユーザに情報を見るように喚起させることができる機能が標準で用意されています。このポータル機能は、intra-martのポータルモジュールで実現されています。

組織部署単位にポータルサイトを設定したり、個人単位の設定をすることで、組織内での情報伝達のスピードアップが図れる

会社（顧客、取引先）単位にポータルサイトを設定することにより、
ECサイトやマーケットプレイスにおいて、サービスレベルを大きく向上させることができる

〈会社・組織、ユーザごとのポータル〉

intra-mart上のアプリケーションごとに表示させたい情報のページを作成し、ポートレットとして登録することで利用できるポートレットとなります。このようにして作成したポートレットは、自由にレイアウトしてポータル画面を作成することができます。また、ワークフローモジュールやWebMailなどのintra-martアプリケーションの一部には、ポートレット画面があらかじめ用意されているものもあります。

ログイン
intra-martにログインすると、初期画面にポータル画面が表示される

ポートレット配置
登録したポートレットをポータル画面に配置する

ポートレット登録
各アプリケーションで作成したページを「ポートレット設定」画面でポートレットとして登録する

ポータルの種類と作成メニュー

intra-martに用意されているポータル画面には、次の表のような4種類が用意されています。これらのポータルの主な違いは、表示させるユーザの範囲の違いで、ログイングループ全員に見せるものから、自分だけのポータルまで用意されています。さらに、アクセス権限を設定することで、特定のユーザの画面にだけ表示させることも可能です。さらに、グローバルポータル以外のポータルは、複数作成することができます。

ポータルの種類	表示される場所	作成者	基本表示範囲	アクセス権の設定
グローバルポータル	ログイン前の画面	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	なし
グループポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	会社・組織 パブリックグループ ロール
組織内ポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	一般ユーザ 組織のポータル管理者	作成者が主所属の組織（配下の組織は含まず）	配下の組織
ユーザポータル	intra-martHOME画面（タブとして）	一般ユーザ	作成者自身	なし

ログイン画面に表示されるポータル

グローバルポータルは、アクセス権限の設定もなく、ログイングループ全員に表示されるポータルです。このポータルはログイン画面に表示されるため、ログインするためのポートレットが用意されています。

〈グローバルポータル〉

intra-martホーム画面に表示されるポータル

グループポータル、組織ポータル、そしてユーザポータルは、intra-martホーム画面に表示されます。各ポータルは、タブとして表示され、簡単に切り替えることができます。また、intra-martのどの画面にも、常に[HOME]ボタンが表示されていて、クリックするだけでホーム画面が表示されます。

〈intra-martのHOME画面　タブによって3つのポータルが切り替えられる〉

■標準で提供されるポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
リンク集		3列以下	
ログインポートレット		3列以下	グローバルポータルでのみ設定可
朝日新聞RSS		3列以下	サンプルとして提供
新着タスク	ワークフロー	3列以下	

■intra-martアプリケーションに付属のポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
今週の予定	スタートパック	2列以下	
今日の予定	スタートパック	3列以下	
新着ToDo一覧	スタートパック	3列以下	
新着お気に入り情報	スタートパック	2列以下	
新着配信情報	スタートパック	3列以下	
伝言メモ	スタートパック	3列以下	
最新見積一覧	営業支援	3列以下	
最新受注一覧	営業支援	3列以下	
新着営業日報一覧	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着上司コメント	営業支援／スタートパック	3列以下	
メール受信状況	WebMail	3列以下	

ユーザポータルの作成

ユーザポータルは、自分自身のためのポータルです。このポータルはintra-martのログイン初期画面（ホーム画面）にタブとして表示されます。ログイングループ管理者が設定したポートレットを自由に配置して、オリジナルのポータルを複数作成することができます。

1 [ユーザポータル]をクリックします。

登録されているユーザポータルの一覧が表示されます。

〈ユーザポータル一覧〉

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、次のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

〈ポータルのレイアウト選択画面〉

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の[選択可能なポートレット]からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、や アイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

〈ポートレットを配置する〉

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

〈設定したポータルに名称をつける〉

6 画面は、再度ポータル一覧に戻ります。この段階でユーザポータルの作成は終了です。

[HOME] ボタンをクリックするとユーザポータルのタブが表示されます。

〈ポータル一覧〉

- タブの表示順を変更するには、[ポータル] の [表示ポータル] を利用します。

Column

ポータルのカスタムレイアウト

ポータルのレイアウト選択画面には、定型的なレイアウトパターンが用意されていますが、この画面で「カスタム」を選択すると、自由にレイアウトを決めることができます。

① 「カスタム」を選択して、[次へ]アイコンをクリックします。

② マウスでドラッグして、最大5×5までの基本レイアウトを決めます。

③ セルをドラッグして、結合、行や列の追加・削除を用いて、カスタムレイアウトパターンを作ります。

④ [次へ]アイコンをクリックすると、ポートレット配置画面に遷移します。

組織内ポータル

組織内ポータルは、作成者が所属する(主所属)組織のユーザに表示されますが、配下の組織に対しては、アクセス権限を設定することができます。なお、組織内ポータルは、intra-martのホーム画面上に表示されます。

- 組織内ポータルのメニューは、ログイングループ管理者が設定したユーザの画面だけに表示されます。必ずしも、全員が利用できるメニューではありません。

1 [組織内ポータル]をクリックします。

登録されているポータルの一覧が表示されます。

〈グループポータル一覧〉

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、前頁のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

〈ポータルのレイアウト選択画面〉

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の[選択可能なポートレット]からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、や アイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

6 アクセス権のアイコンをクリックします。

7 アクセス権設定画面が表示されます。すでに作成者の所属する組織へのアクセス権が設定されています。[詳細]ボタンをクリックします。

[検索]ボタンでアクセス権の追加ができますが、組織内ポータルでは作成者が所属していない組織へのアクセス権の設定はできません。

8 配下組織や役職による絞込みなどのアクセス権を設定します。

9 アクセス権設定画面に戻ります。

設定した情報が表示されています。これで、グループポータルは完成です。

ポータルの表示順序の変更

グループポータル、組織内ポータルそしてユーザポータルは、intra-martホーム画面上にタブとして表示されます。このタブの表示順を設定するのが[表示ポータル]です。この設定は、設定したユーザの画面にのみ有効です。

1 **[表示ポータル]をクリックします。**

2 **タブとして表示されているポータルのタイトルが表示されています。任意に表示順を変更して、[決定]ボタンをクリックします。**

ポータルの名称選択して、▽や△アイコンで表示順を変更します。

＜表示ポータル設定画面＞

簡易SSO

この機能はグループ管理者が「SSOを使用する」に設定したポートレットの一覧が表示され、アカウントとパスワードを設定すると、ポータル表示されている画面でアカウントとパスワードを入力しなくてもログインが可能になります。

〈簡易SSO設定一覧〉

［編集］アイコンをクリックすると、選択したポートレットに対するとアカウントとパスワードを設定できます。入力後は［登録］ボタンをクリックします。

〈ID/パスワード設定画面〉

5 プライベートグループの利用

プライベートグループは、ユーザが個人で自由に管理することができるグループです。パブリックグループとは異なり、ログイングループ全体で共有されることはありません。

プライベートグループの新規登録と編集

プライベートグループの登録、編集は、[ユーザ設定]—[プライベートグループ]で行います。所属するユーザの追加、削除も同様に、ここで行うことができます。

プライベートグループの作成

プライベートグループの設定は、[ユーザ設定]-[プライベートグループ設定]で、ユーザごとに行います。

1 **[ユーザ設定]-[プライベートグループ]を選択し、[新規登録]をクリックします。**
ログインユーザが作成したプライベートグループの一覧が表示されます。

2 **プライベートグループに関する設定を行い、[登録]アイコンをクリックします。**
登録すると、プライベートグループの一覧が表示されます。

グループコード(必須)	グループコードを入力します。
名称	プライベートグループの名称を入力します。
カナ	グループ名をカナで入力します。検索で使用されます。
英字	グループ名を英字で入力します。検索で使用されます。
備考	備考を入力します。
ソートキー	複数のプライベートグループの表示順を数字で制御します。

3 プライベートグループの一覧で、所属ユーザ欄の[編集]ボタンをクリックして、ユーザを登録します。

グループの編集や削除を行うには、更新・削除の[編集]ボタンをクリックします。

4 プライベートグループの所属ユーザ一覧画面で、[新規登録]をクリックします。

ユーザ検索画面が別ウインドウで表示されます。

http://pdg.intra-mart.jp - ユーザのメイン画面 - Microsoft Internet Explorer
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
戻る
お気に入り
HOME
LOGOUT
MENU ON/OFF
青柳辰巳
intra-mart
ロケール設定
ポータル
ワークフロー
サンプル
所属ユーザ一覧
新規登録
戻る
グループ名
新製品企画グループ
所属しているユーザが存在しません
ページが表示されました
インターネット

5 ユーザを検索して[決定]ボタンをクリックします。

登録すると、プライベートグループの一覧が表示されます。

6 プライベートグループが登録されて、プライベートグループの所属ユーザ一覧が表示されます。ここでは、ユーザの表示順の設定や所属ユーザの追加・削除が行えます。

プライベートグループの設定はこれで終了です。

新規登録	ユーザを追加登録できます。
(チェックボックス)	チェック後、[所属解除]ボタンをクリックすると、ユーザをグループから削除することができます。
ソート番号	数字を入力するとこと、表示順を制御できます。[ソート番号更新]ボタンで設定を反映させます。
[所属解除]ボタン	チェックしたユーザをグループから削除することができます。
[ソート番号更新]ボタン	ソート欄に入力した数字順に表示を更新します。

6 検索の操作

intra-martでは、ユーザをはじめ、会社・組織、各種グループ、ロールなどを検索する画面を用意しています。アプリケーションで、これらの項目を追加・選択する場面では、別ウインドウで検索ウインドウが表示されます。

〈ユーザ検索〉

検索基準日について

- マスタの履歴化に伴い、検索画面には検索基準日が表示されています。この検索条件は、ユーザが変更することはできませんが、アプリケーションによっては、検索画面を呼び出す段階で検索基準日の情報を受け渡して、検索の条件に設定している場合があります。

すべて表示について

- ユーザ検索画面には、「すべて表示」というアイコンが用意されています。この検索機能は検索基準日に存在するユーザをすべて表示するというものです。

ユーザの検索

この画面では、ユーザを会社や組織、パブリックグループ、プライベートグループなどから検索する「グループから検索」と、ユーザコード、名前、名前の読みなどで検索する「キーワード検索」が用意されています。

グループから検索

会社・組織、パブリックグループ、プライベートグループ、ロールから絞り込んでユーザを検索するツールです。「会社・組織」を選択した場合「副所属も表示する」にチェックをすると、主所属以外のユーザも検索することができます。

1 [グループから検索]コンボボックスでグループを選択し、[表示]アイコンをクリックします。

ツリー形式で組織やグループが表示されます。

〈ユーザ検索画面〉

副所属も表示する	主所属以外のユーザも検索することができます。

2 表示させたい組織やグループを選択します。

「以下のユーザをすべて表示する」をチェックしておくと、選択した組織やグループの配下に所属するユーザもすべてが表示されます。

〈組織やグループがツリーで表示される〉

3 追加したいユーザを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

〈所属するユーザが表示される〉

キーワード検索

[キーワード検索]では、[グループから検索]で選んだグループ(会社・組織、パブリックグループ、プライベートグループ、ロール)に所属または保有するユーザに対して、キーワード(ユーザコード、名前)を指定して検索をすることができます。
[グループから検索]で「会社・組織」を選択した場合に「副所属も表示する」にチェックをすると、主所属以外のユーザも検索することができます。

1 キーワードを入力後、[検索]アイコンをクリックします。

キーワードは、ユーザコード、名前、名前カナで検索できます。検索は部分一致で行われます。

〈ユーザ検索〉

副所属も表示する	主所属以外のユーザも検索することができます。

2 追加したいユーザを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

〈キーワードで検索〉

会社・組織とパブリックグループの検索

会社や組織の検索には、「ツリー表示」から検索する方法と、会社・組織名で検索する「キーワード検索」が用意されています。パブリックグループの検索も同様の操作です。

ツリー表示から検索

会社・組織のツリーを表示して、組織を選択します。

1 **[会社・組織検索]からツリー表示アイコンをクリックします。**

下部にツリー形式で会社・組織が表示されます。

〈会社・組織検索画面〉

2 **ツリーをたどって、会社や組織を選択し、[決定]ボタンをクリックします。**

〈会社や組織がツリーで表示される〉

キーワード検索

［キーワード検索］では、会社・組織のコード、名称などから検索することができます。

1 キーワードを入力後、［検索］アイコンをクリックします。

キーワードは、会社・組織コード、名前で検索できます。検索は部分一致で行われます。

〈会社・組織検索画面〉

2 選択したい会社・組織を選択して、［決定］ボタンをクリックします。

〈キーワードで検索〉

プライベートグループの検索

プライベートグループの検索は、「キーワード検索」で行います。プライベートグループにはグループという概念がないので、ツリーからの検索は行えません。

1 キーワードを入力後、[検索]アイコンをクリックします。

キーワードは、グループコード、グループ名で検索できます。検索は部分一致で行われます。

〈プライベートグループ検索画面〉

2 選択したいプライベートグループを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

〈キーワードで検索〉

ロールの検索

ロールの検索は、カテゴリによる検索と、ロール名で検索する「キーワード検索」が用意されています。また、カテゴリとロール名による複合検索も可能です。

カテゴリから検索

ロールがカテゴリに分類されている場合は、カテゴリで検索できます。また、カテゴリと同時にロール名を組み合わせて検索することもできます。

1 [ロール検索]で、カテゴリをコンボボックスから選択し、[検索]アイコンをクリックします。

〈ロール検索画面〉

2 ロールを選択し、[決定]ボタンをクリックします。

カテゴリに属するすべてのロールが表示されます。

〈カテゴリに属するロールが表示される〉

キーワード検索

［キーワード検索］では、ロール名から検索することができます。また、カテゴリを併用することもできます。

1 キーワードを入力後、［検索］アイコンをクリックします。

キーワードは、ロール名で検索できます。検索は部分一致で行われます。なお、この画面では、カテゴリも併用して検索しています。カテゴリをブランクにすると、全カテゴリが検索対象となります。

〈ロール検索画面〉

2 選択したいロールを選択して、［決定］ボタンをクリックします。

〈カテゴリとロール名で検索〉

7 ワークフローの設定と操作

intra-martには、ドキュメント型のワークフロー機能が標準で用意されています。ドキュメントワークフローは、申請に対してあらかじめ承認者を設定したルート（プロセスと呼びます）に従って、承認あるいは否認、差し戻しなどを行うワークフローです。これらの申請や承認などの処理を行う部分をタスクと呼びます。これに対して、intra-martのエクステンション・モジュールとして用意されているIM-ワークフローデザイナー（別売）を追加すると、分岐や結合といった複雑な承認のプロセスを利用することができるようになります。さらに、ビジネスプロセスワークフロー（アドバンスド版に同梱）を利用すると、承認、否認だけではなく、あらかじめ設定したプロセスに沿って業務（業務画面）を次の担当者に受け渡すことができ、業務効率を向上することができます。

- IM-ワークフロー機能の詳細と操作に関しては、別冊の「ワークフローガイド」を参照してください。

8 ViewCreator

ViewCreatorは、intra-martの画面上からデータベースを操作することができるツールです。既存のデータベースから、そのデータ構造を読み取り、データを明細表示するビュー画面と詳細データの参照更新が行えるフォーム画面を自動生成します。データベースから直接データ構造を読み取るほかに、テーブル定義ファイルなどの情報からビューやフォームを作成することもできます。表示項目を絞り込んだり、並び順の変更、項目単位のアクセス権設定などが用意されていますので、既存データベースをもとにしたEUC（エンドユーザコンピューティング）が実現できます。

アプリケーションの起動

作成したアプリケーションは、intra-martの「アプリケーション一覧」に表示されます。アプリケーションを起動すると、選択したテーブルの内容を表示し、フォームを利用してデータの編集ができます。
［アプリケーション一覧］メニューから、該当するアプリケーション名をクリックします。
アプリケーションのビューが表示されます。

〈アプリケーションのビュー画面〉

新規作成	フォームが表示され、データを追加することができます。

〈テーブルまたはDDLファイルの指定〉

CSVダウンロード	表示されているビューのデータを、CSV形式でダウンロードすることができます。

VIEWの選択	用意されているビューを選択することができます。
クイック検索	クイック検索欄に入力した文字列でデータを検索することができます。カラム編集で「検索可」となっているカラムが検索対象となります。
昇順・降順	カラムを並び替えるときのソート順を選択します。
カラム名	各カラム名をクリックすると、昇順または降順に並べ替えることができます。
アイコン	フォームが表示され、選択したデータを編集することができます。

9 i-modeの利用

intra-martでは、i-modeからアクセスに対応したページを作成することができます。ユーザ設定には、i-modeでのアクセスに対応したメニューとして、[モバイルパスワード設定]と[外出設定]が用意されています。i-mode端末でログインするには、次のようなURL（標準設定の場合）でアクセスします。通常のブラウザでログインするURLとは異なりますので、注意してください。

```
http://intramart/imart/(ログイングループID).mobile
```

モバイルパスワード設定

ログイングループ管理者が発行する初期のモバイルパスワードは、ユーザの画面から自由に変更することができます。設定は、[ユーザ設定]の[モバイルパスワード変更]で行います。

〈モバイルパスワードの変更画面〉

● モバイルのメールアドレスの設定は、ログイングループ管理者が行います。

i-mode用外出設定

intra-martから送信されるメールは、通常時はユーザ管理マスタメンテナンスで登録したメールアドレスに送信されます。[ユーザ設定]の[外出設定]で「外出」に設定しておくと、通常のメールアドレスに送信されると同時に、i-mode用メールアドレスにも送られます。

〈外出設定〉

10 メンテナンス画面の文字入力制限

intra-martの各メンテナンス画面における文字の入力制限について説明します。

ID、コード、パスワード系のフィールド

半角英数字と一部の半角記号のみ入力可能です。

条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-zA-Z)
文字'_'(0x5f)
半角ハイフォン(-)
半角アットマーク(@)
半角ピリオド(.)
半角プラス(+)
半角ドルマーク($)
半角シャープ(#)
半角エクスクラメーション(!)
半角スラッシュ(/)
半角ハイフォン(-)

- 全角英数字と全角アンダースコアは半角に自動変換します。

URL、メールアドレスフィールド

可視文字すべて(スペース以外*1)入力可能です。

条件

コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
スペース(0x20)を除く
日本語等のWバイト文字も入力可能

- *1:日本語ドメインが存在するため、半角、英数字チェックはしていません。

色コード設定フィールド

半角数字と半角英字A～Fまでの半角英字を入力可能です。

条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-fA-F)

数値入力フィールド(ソートキー等)

数字のみ入力可能です。

条件

半角数字(0-9)のみ
正負記号(´+´および´-´)を除く
区切り記号(´.´および´,´)を除く
日本語のWバイト文字を除く

名称や備考など

キーボードから入力可能な文字すべて入力可能です。

条件

コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
スペース(0x20)も入力可能
日本語等のWバイト文字も入力可能

補足事項

コントロールコード

「コントロールコード」とは、下記の文字を意味しています。
0x00～0x1fの範囲に含まれる文字
文字　0x7f(Delete)

- これらは、ディスプレイに表示できず、コンソールに出力するとビープ音が出力される文字です。

適用フィールド

バッチ設定

バッチID → 1

カレンダー設定

カレンダーID → 1
データID → 1
データ名 → 1
表示色 → 3

分類設定

分類コード → 1
ソートキー → 4

ログイングループ設定

ログイングループID → 1
ユーザID → 1
パスワード → 1
パスワード（確認） → 1
ページパターンID → 1
ページURL → 2
ページイメージURL → 1
メールアドレス → 2

役職設定

役職コード → 1
ソートキー → 4

会社設定

会社コード → 1
組織コード → 1
メールアドレス1 → 2
メールアドレス2 → 2

URL → 2
ソートキー → 4

パブリックグループ設定

グループセットコード → 1
グループコード → 1
ソートキー → 4

ロール設定

ロールID → 1
ロール名 → 1
カテゴリ → 1

システム管理者設定

ユーザID → 1
パスワード → 1
パスワード（確認） → 1
メールアドレス → 2

アカウント設定

ユーザコード → 1
パスワード → 1
確認パスワード → 1
モバイルパスワード → 1
確認モバイルパスワード → 1
メールアドレス1 → 2
メールアドレス2 → 2
携帯メールアドレス → 2
URL → 2
ソートキー → 4

管理メニュー設定

URL → 2

メニュー設定

URL → 2

intra-mart The Power for Enterprise Web Solution

ベースモジュール/フレームワーク・マニュアル Ver. 5.0 アドミニストレータ・ガイド

2005年 11月 3版

株式会社 NTTデータ イントラマート
〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-16 SKI赤坂ビル
TEL(03)5549-2821 FAX(03)5549-2816
E-mail:info@intra-mart.jp
ホームページ:http://www.intra-mart.jp
Copyright 2000-2006 株式会社NTTデータ イントラマート All rights Reserved.

※本マニュアルに記載されている社名および商品名は 一般に各社の商標および登録商標です。